

GUIDE BOOK

観光ガイド用テキスト

五島案内人ノート



五島市おもてなしガイド連絡協議会

五島観光地図

基本知識

〔市の花木〕 ヤブツバキ

〔市の花〕 ハマユウ

〔市の木〕 アコウ

〔市の鳥〕 メジロ

〔市歌〕 燦々と



〔五島市・市章〕





ガイドの心得 2

五島市の概要 6

五島の歴史 14

教会堂 28

神社仏閣 42

観光地 50

自然 70

散策・トレッキング 94

民話・民謡・祭り・イベント 100

特産品 112



〔五島市キャラクター〕



つばきねこ
頭に市の花木であるヤブツバキを頭に載せたネコ。



バラモンちゃん
五島に古くから伝わる大風「バラモン風」をモチーフにしている



ことりん
頭に市の花木であるヤブツバキ、また五島教会群にちなみベールをかぶっている。



はじめに

近年、人口減少及び少子高齢化の波は日本全国の地方自治体に急激な勢いで押し寄せてきています。そして、この五島市においても決して例外ではなく、昭和30年のピーク時には約9万2千人の人口を有しておりましたが、平成27年4月末現在では約3万9千人となり過疎化の流れは、その速度を明らかに早めつつあります。

そして、この大きな流れをくい止めることは、極めて困難であることを多くの人が認識しているところでしょう。

ところで、人が集まらない所に活性化は望めません。人口減少化の五島を活性化させるためには一時的にでもよいから人を集める必要があります。その方策としては、交流人口すなわち観光客の入り数を増やすことが、焦眉の急であると思われます。

幸いなことに「バラモンキング」と「夕やけマラソン」の参加者が年々増加の傾向にあることに加え、長崎の教会群（五島市は旧五輪教会堂と江上天主堂）の世界遺産登録が現実味を帯びてきました。

このようなことから、今後、更なる観光客の増加が予想されます。そこで重要なことは、島外から来られた観光客の皆様にも、五島の歴史、文化、美しい自然等を説明し五島を満喫してもらうことではないでしょうか。

宿泊業者、輸送業者、飲食店業者、お土産販売業者の方々は観光客の皆様と接する機会も多く、お客様との会話の中で五島に関することを尋ねられることも多々あるかと思えます。しかし、意外と自分の故郷である五島のことから分らず、回答に窮した経験を持たれた方もあるでしょう。

観光客から問われたことに対して「簡単にでもよいから説明したい」 そのためにも「五島のことについてもっと知りたい」 しかし、「忙しくて図書館に行って多種多様の資料を探して勉強する時間もない」というのが実情だろうと思えます。

そこで、そういう方々のために全般的にコンパクトに集約したのがこの「ガイド用テキスト」です。また、これから本格的に観光ガイドとして五島を案内したいと思われる方にとっても基礎知識を修得できる有効なテキストとなるでしょう。

五島は歴史の宝庫です。そして美しい自然の島です。

古くからの伝統と文化、歴史、自然に恵まれた「ふるさと・五島」を観光客に「おもてなしの心」で紹介し、「五島に来て良かった」「もう一度、五島を訪れたい」と思われるようなガイドができるように本テキストを活用して頂ければ、編集者一同としても望外の喜びであります。

2015（平成27）年11月吉日

編集委員一同

ガイドの心得

この章では、五島をガイドする際の心がまえ、言葉づかい、教会内でのルールなど、最低限のマナーについて、説明しています。

でも、もっとも大切なことは、お客さまに楽しんでもらいたいという心です。



ガイドの心得

【基本ガイド心得】

1. 安全に

事故やけがの無いように、目的地までご案内します。

2. 身だしなみ

必要以上にオシャレすることはありませんが、お客様から見て不快に思わせない程度に。

3. 言葉使い

- ・敬語を使いましょう。
- ・話す言葉ははっきりと正しく伝えます。
- ・ご案内であり、単なるお喋りにならないように。

4. 笑顔

- ・どんな時も笑顔を忘れないように。
笑顔ほど、一番大事なおもてなしはありません。

5. 最低必要な挨拶とおもてなしの言葉

- ・おはようございます。こんにちは。五島へようこそお出で下さいました。お待たせいたしました。お疲れさまでした。ありがとうございます。
- ・ありがとうございます。よろしく願いたします。
- ・また、ぜひ五島へおいでください。おまちいたしております。
- ・お帰りにはどうぞ気をつけてお帰り下さい。さようなら。

※ガイドによって、お客様の1日が決まると言います。確かにそのような面はあります。しかし、主役はお客様です。お客様また添乗員に合わせてガイドは案内し、ご要望があればそれに従って仕事をする。それも義務的ではなく誠意をもっておこなえば当然良いガイドさんだったという印象になります。

お客様にはどれだけ丁寧にしても、しすぎて文句を言う人はいません。

ただ、丁寧と媚びることは違います。見せかけだけのサービスなどは、お客様にすぐ解ります。

自分達は、五島の顔でありセールスマンなんだと思い、一つ一つの仕事を大事にしてください。

【教会堂拝観ガイド心得】

【教会堂は祈りの家です。訪ねるときに守りたいマナー】

教会堂を訪ねるときは、まず、そこで祈りをささげる人々への理解が大切です。拝観時にはマナーを守ることを心がけましょう。

●ミサや教会行事中は妨げにならないようにしましょう。

・ミサ中や教会行事がある場合は、妨げにならないよう入室は控えましょう。

また葬儀などの特別な場合、その時間帯は教会堂に入ることをご遠慮ください。

●静かに、大声厳禁。携帯電話はマナーモードに。

・私語はつつしみ、携帯電話もマナーモードにしておきましょう。

・大声でのおしゃべりは厳禁です。教会堂の中に誰もいない場合でも、静かに拝観しましょう。お子様づれの場合、ご同伴者が気を配ってあげましょう。

●服装は、肌の露出しすぎを避けましょう。

・教会堂の中に入る時は脱帽してください。平服でかまいませんが、大人のかたは短すぎるスカートやズボン、ノースリーブなど極端に肌を露出した服装は避けましょう。

●五島市内の教会堂は土足厳禁※1、管理上施錠されている教会堂もあります。

・土足厳禁の教会堂では靴は下駄箱に入れてから拝観しましょう。
・祈りの場として多くの教会堂は開放されていますが、管理上閉じられている教会堂もあります。

※ 福江教会・浦頭教会は土足可です。

●教会堂内外の装飾物、聖具などには手を触れないでください。

- ・教会堂に入るとすぐ、聖水盤があります。信者が教会に入る際に身を清め十字を切るために用いるもので、司祭が祝福した水（聖水）が入っています。
- ・教会の鐘の音は信者のみなさんにとって大切な合図になっていますので、鳴らさないようにしましょう。
- ・教会堂内には聖具、装飾物はもちろん、信者の聖書、聖歌集、祈禱書などが置いてあります。おやみに手を触れないようにしましょう。
- ・教会堂の電気は勝手につけないようにしましょう。

●内陣は入れません。

- ・祭壇があり、一段高くなっている内陣は、もっとも神聖な場所です。内陣には絶対に入らないようにしましょう。

●飲食、喫煙はできません。

- ・教会堂内で飲食や喫煙をすることはできません。

●教会堂内の写真撮影は事前の許可が必要です。

- ・基本的に教会堂内の撮影はできません。撮影は事前に管理者の許可が必要です。

●ごみについて

- ・ごみは各自かならず持ち帰るようにお伝えしましょう。

五島市の概要



波はハーモニーを、太陽は人々の活力を、
緑の楕円は豊に取り巻く自然や人の和を
象徴し、全体は、五島のイニシャル「G」
を表しています。



五島市の概要

五島市は、2004（平成16）年8月1日に福江市、富江町、玉之浦町、三井楽町、岐宿町、奈留町が合併して誕生しました。

「しまの豊かさを創造する海洋都市」を市の基本理念として、人と自然との共生を大切に、安心と活力あふれるまちづくりを目指しています。



〔市の花木〕
ヤブツバキ



〔市の花〕
ハマユウ



〔市の木〕
アコウ



〔市の鳥〕
メジロ

〔市歌〕 燦々と

【五島市となった旧市町の沿革】

○旧福江市

福江市の玄関口である福江港は、古くは「深江」といわれ、その名のように深い入江の岸に開けた小さな漁村でした。その後深江は、明国の貿易商で倭寇の誘導者でもあった王直一党の根拠地として海外との貿易港となり、五島藩（福江藩）※1の財政に貢献しました。

明治以後は、1871（明治4）年の廃藩置県により福江県が置かれ、同年長崎県に統合されます。1919（大正8）年10月には郡内各村にさきがけて福江村から福江町になりました。

更に福江町と隣接する奥浦、崎山、本山、大浜の4ヶ村とは物心両面の交流が行われていましたが、「町村合併促進法」を機に1954（昭和29）年4月1日福江市が誕生し、その後1959（昭和32）年3月に椀島村、同年11月に久賀島村を編入しました。

○旧富江町

富江町は、古くは約4,000年前からすでに縄文式文化が営まれていたことが知られています。また直接富江の政治が行われるようになったのは、

1655（明暦元）年12月五島領主盛次の弟盛清が3,000石の分封を受けて旗本富江領を興した時からです。1871（明治4）年廃藩になるまで200余年の間、3,000石の町として繁栄を誇りました。同年廃藩置県の制度に従い福江県の管轄を経て長崎県に統合されました。

1879（明治12）年7月戸長役所が東部富江村、西部富江村、南部富江村に置かけましたが1882（明治15）年3つの役所を廃して一つに統合されました。

1888（明治21）年市町村制公布により1889（明治22）年4月1日富江村が発足し、更に村の発展に伴い1922（大正11）年9月1日富江町が誕生し、今日の富江地区の基礎をつくりました。

○旧玉之浦町

玉之浦町は、遣唐使が寄港したという伝説がある等古くよりさまざまな歴史的背景のもとに発展してきた町です。中世は豪族により支配が行われ、江戸時代には五島藩に属しています。

1871（明治4）年7月廃藩置県により福江県となり、同年11月長崎県に統合されました。1889（明治22）年玉之浦村の発足に伴い、現在の行政区画を確立し、1933（昭和8）年11月3日玉之浦町が誕生しました。

○旧三井楽町

その昔遣唐使船の碇泊地であった三井楽町は、多くの碑や伝説があり「みみらくのわが日のもとの島ならばけふも御影にあはましものを」の「みみらく」が現在の町名の古名であると言われています。

1871（明治4）年廃藩置県により福江県に編入され、岐宿、玉之浦とともに3大区に属しました。同年長崎県に統合され、区制施行により29大区に属し、21小区となり戸長役所が浜ノ畔郷に置かけました。

1889（明治22）年の市町村制施行とともに三井楽村が発足し、1940（昭和15）年11月に三井楽町が誕生しました。

※1

五島藩は、江戸時代の肥前国において、五島列島全域を治めた藩。福江藩とも呼ばれる。

【地勢】

福江島の西側の海岸は、東シナ海の荒波を受け海蝕崖がちなり、特に大瀬崎の断崖、嵯峨島の火山海蝕崖は有名です。また、福江島、嵯峨島には、小型のスコリア丘及び楯状火山の火山群があり、その特異な火山形は我が国でも珍しい存在となっています。島全体の景観は非常に美しく、その大部分が西海国立公園に指定されています。

海岸線は、リアス式海岸で変化に富み、天然の良港に恵まれ、魚類をはじめとする養殖等の適地となっています。また、黒潮本流から分岐して北上する対馬暖流と、列島付近にできる沿岸流との影響から魚の回遊が多く、西日本有数の好漁場を形成しています。



【交通】

●航路の状況（本土との間）

[空路]

- 福岡⇄五島福江（ANA、JAL、ORC）
- 長崎⇄五島福江（ANA、JAL、ORC）

[海路]

- 長崎⇄福江（九州商船：ジェットfoilペガサス、ジェットfoilペガサス2、フェリー万葉／椿）
- 博多⇄福江（野母商船：フェリー太古）

●離島間航路の状況

[福江島と二次離島を結ぶ]

- 福江⇄奈留島（五島旅客船：フェリーオーシャン、ニューたいよう）
- 福江⇄椛島（木口汽船：ソレイユ）
- 福江⇄赤島⇄黄島（黄島海運：おうしま）
- 貝津⇄嵯峨島（嵯峨島旅客船：さかのしま丸）

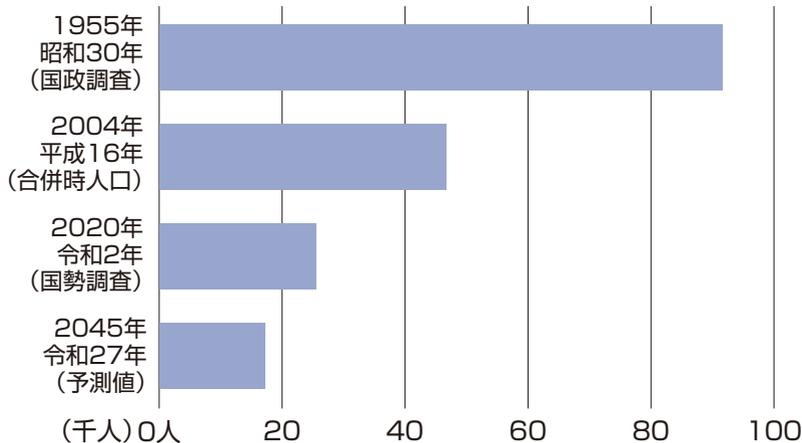
[二次離島間を結ぶ]

- 奈留⇄前島（市営交通船：デマンド運航）

【人口】

人口は、1955（昭和30）年の約9万2千人をピークに減少傾向にあり、2020（令和2）年の国勢調査では、約3万4千人とこの65年間で半分以上減少しました。国の機関（社会保障・人口問題研究所）は、25年後の2045（令和27）年には約1万8千人とさらに半減すると予測しています。

【五島市人口推移】



【有人島の人口と面積】

島名	人口 (人)	面積 (km ²)
福江島	32,577	326.36
久賀島	261	37.24
椀島	92	8.69
黄島	35	1.39
赤島	8	0.51
蕨小島	11	0.03
黒島	0	1.12
島山島	16	5.50
嵯峨島	97	3.16
奈留島	1,894	23.68
前島	25	0.47
合計	35,016	408.15

国土地理院及び市政政策企画課調べ 人口は令和4年12月31日現在（住基人口）

(注) 四捨五入により0.001km²以上

【産業】

本市の就業人口の産業別割合は2020（令和2）年国勢調査によると第1次産業が14.4%、第2次産業が12.6%、第3次産業が70.5%であり、第3次産業が約7割を占めています。第3次産業のなかでも卸売・小売業、医療・福祉、宿泊業・飲食の占める割合が高くなっています。以前からすると農業就業者が大幅に減少しており、従来の農業・水産業主導型の産業構造から第3次産業へと移行しています。

【観光】

五島市は美しい自然景観と、遣唐使、倭寇や教会などのキリシタン関連等の幾多の歴史、文化遺産に恵まれており、それらを活かした観光、イベントの開催など観光産業は五島の基幹産業の一つとなっています。

2021（令和3）年における五島市の延べ宿泊者数は約14万人（県全体約445万人）で、観光消費額は約44億円（県全体1,868億円）となっています。

ひとくちメモ

住民基本台帳による人口について

令和4年12月現在

人口 35,016人

内訳 男16,637人（内外国人 97人）
女18,379人（内外国人 178人）

参考 世帯数 19,611世帯

【五島市 市民憲章】

わたしたちは、美しい自然と、古代からの歴史に満ちた五島市の市民であることに誇りを持ちます。そして、ふるさとの伝統と文化を愛し、個性豊かな島づくりをめざして、ここに市民憲章を定めます。

- 青い海と緑の島の風土を愛し、豊かな自然を大切にしましょう。
- 希望と活力に満ち、心身ともに健康な毎日を過ごしましょう。
- 一人ひとりが思いやりをもち、共に生きる明るい社会を築きましょう。
- 歴史と伝統を学び、創造的で新しい文化を育てましょう。
- 人の和の広がるまちをつくり、永遠の平和をめざしましょう。

五島の歴史

上古時代から平安時代、五島と遣唐使船、五島と倭寇、五島藩の概要、五島とキリスト教の歴史についてです。

その起源をたどると、日本の歴史に大きく関わった重要な島です。



【概要】

1 上古時代から平安時代

古事記の国産みにおいて、イザナギ、イザナミが大八嶋を産んだ後、更に「吉備児島」^{きびこじま}「小豆島」^{しょうどしま}「周防大島」^{すおうおおしま}「女島」^{めじま}「知訶嶋」^{ちかのしま}「両児島」^{ふたごのしま}を産むが、この中の「知訶嶋」が五島列島です。最後の「両児島」が男女群島であるというのが通説です。

古くは福江島、久賀島、奈留島を大近、上五島の島を小近と呼んでおり、現在の小値賀島がその名残と言われています。

五島列島に人が住み着いたのは、旧石器時代と言われており、島内では、旧石器時代、縄文時代及び弥生時代の遺跡が数多く発見されています。

遺跡などから考えると、縄文時代の生活は同時代の本土と変わらないものでありましたが、弥生時代になっても農耕に不適な地勢から暫らくは縄文時代の生活様式が続くこととなります。なお、五島は海の幸山の幸が豊富であったため、あえて農耕つまり弥生文化の導入を必要としなかったとも言われています。

平安時代においては遣唐使が最後の寄港地となるなど、大陸文化の受け入れの通路として日本の歴史に寄与しました。

9世紀後半には、五島を「値嘉郷」^{ちかごう}、平戸を「庇羅郷」^{ひらごう}と呼び、両地域を併せて値嘉島という行政区画となりました。

2 中世以降から五島藩成立まで

その後、中世（鎌倉時代）にいたるまで五島列島の政治勢力に大きな変化はみられませんでした。中世になると松浦水軍の松浦党に属した宇久氏が鎌倉時代以降に勢力を伸ばし、宇久島から五島列島のほぼ全域を支配下に収めました。

宇久氏は、14世紀後半に拠点を宇久島から福江島に移し、玉之浦納の反乱により、ある期間において統治空白の状態を経ながらも、近接する平戸松浦氏とも良好な関係を維持しつつ戦国大名となりました。

戦国時代には後期倭寇の頭目で貿易商人でもあった王直が宇久氏の協力の下で五島を活動の一拠点としております。

種子島への鉄砲伝来にも主導的な役割を果たしたといわれる王直は、自らを「五峰王直」と名のりましたが、この五峰とは五島の別称です。

五島は、既述したとおり古くから「ちかのしま」と呼ばれていましたが、五という数字を尊ぶ中国の発想から、五峰、五山、五島と呼ばれるようになり、それが日本にも伝わって五島の呼び名が定着したとされています。

その後、豊臣秀吉が九州を征服すると20代当主宇久純玄すみはるは、これに臣従※1して1万5千石の領地支配を認められ、朝鮮出兵の際に姓を宇久から五島に改めました。

3 五島藩政時代以降

江戸時代の五島列島は大半が五島藩（福江藩）の領地となり、小値賀島とその属島及び中通島の最北端部は平戸藩の領地となっていました。このほか、福江藩の分家として富江に陣屋を置いた富江五島家の領地があり、中通島においては、福江領と富江領の領民間で漁業権などをめぐる衝突がしばしば起こりました。

五島氏の領地は明治維新に到るまで続き、異国船の往来が増えた幕末に福江城（石田城）が築城されて今日も福江の中心部に美しい石垣が残っています。

明治に入り富江は福江藩に合併されましたが、ほどなく廃藩置県となり、福江県・平戸県を経て現在のように長崎県の一部になりました。その後、鎖国政策の江戸時代には辺境の離島であった五島にも文明開化の波が押し寄せ、地勢学の重要性から大瀬崎灯台や女島灯台などが建設されました。

昭和の時代においては海産物の水揚げ、新しい加工技術の導入及び養殖の増加に加え、戦争の戦禍をほとんど受けなかったことや珊瑚等の特産物がブームになるなどの幸運もあり、五島の総人口は増加していき、最盛期には15万人を超えました。この間、1962（昭和37）年には五島の中心地である福江の中心市街地が全焼する福江大火による大規模な被害を受けましたが、経済成長時代の勢いもあって見事に復興し、むしろ市街地の近代化に成功しました。

※1
臣従
臣下として主君につき従うこと。

近年では五島全域で人口が減少に転じ、住民の高齢化も進んでいます。

2004（平成16）年の大合併によって五島の行政区画が大きく五島市と南松浦郡新上五島町に集約されたものの、過疎・高齢化は止まらない状況です。

特に若年層が島外へ出て就職するケースが多いため、若者の就労機会を増やす取り組みがなされています。

【五島と遣唐使】

遣唐使とは、中国の進んだ文化や制度、仏教の教義などを学ぶ目的もあり7世紀～9世紀に日本の朝廷が唐に派遣した公式の使節です。使節は、大使、副史、判官、録事等からなり、留学生及び留学僧を伴い、多い時には500人にも達しました。

日本側の資料では唐の皇帝と対等に交易・外交をしていたとありますが、唐側の資料では「倭国が唐に派遣した朝貢使」とされています。

894（寛平6）年に菅原道真の建議により停止されました。

1 目的

遣唐使は、唐を中心とする東アジアの国際情勢の情報入手と先進的な文化の摂取が目的でした。唐の諸制度や文化を学んだ留学生及び留学僧は、建設間もない日本の律令国家を整備する上で必要不可欠であり、彼等が律令国家の繁栄を支えたと言っても過言ではないでしょう。

2 航路

①北路

北九州より朝鮮半島西海岸沿いを経て、遼東半島から山東半島へ到るルートで、630年から665年までの航路でしたが、朝鮮半島情勢の変化（日本と敵対していた新羅が朝鮮半島を統一）により本ルートを使用しなくなりました。

②南路

五島列島から東シナ海を横断するルートで北路コースが取れなくなってから遣唐使廃止（894年）までの航路でした。

五島の福江島は最後の寄港地であり、岐宿の川原（白石湾）において食料及び飲料水を補給した後、三井楽の柏崎に到り（風待ち）、此れより長江（揚子江）の河口を目指して船出しました。

③南島路

薩摩の坊津より出帆し、南西諸島を經由して東シナ海を横断するルートですが、気象条件により南路から外れた場合にやむを得ずとった航路と考えられています。(日本書紀によれば、往路の事例はなく、復路の事例が5件あるのみです。)

3 廃止の理由

894年、遣唐大使に任命された菅原道真是、次の理由により宇多天皇に遣唐使廃止の建議を行い、二百数十年続いた遣唐使は廃止となりました。

- ①唐は既に衰退し、内乱が続いており安全に交流できるか疑問である。
- ②遣唐使船の多くは遭難しており、国家有為の人材を失う。
- ③日本と唐の文化は対等で、もはや学ぶべきものはない。
- ④いつの間にか唐の属国（朝貢）のように扱われており、国辱である。

【五島と倭寇】

倭寇の歴史は、前期倭寇と後期倭寇の二つに分けられます。前期倭寇は日本人が主で一部が高麗人でしたが、後期倭寇は中国人が多数派で一部に日本人をはじめ諸民族を含んでいたと推測されます。

1 前期倭寇

前期倭寇が活動していたのは14世紀、南北朝時代から室町時代初期で中央統制がゆるく倭寇も活動し易かった時代です。壱岐、対馬及び平戸（五島を含む）が主要メンバーであったため三島倭寇とも呼ばれています。

2 後期倭寇

後期倭寇とは、明の海禁政策などの理由により、遠くは東アジアの海上に進出して貿易活動をした集団であり、目的は強制密貿易でした。倭寇の中心は、中国人であったと

されており、真倭（本当の日本人）は2割から3割の極めて少数派でありました。ただし、少ないながらもこれら日本人は、当時日本が戦国時代であったことから実戦経験豊富な者が多く、戦争の先頭に立ったり指揮を執ることで倭寇の戦力向上に資していたと言えます。後期倭寇の頭目王直は、五島列島などを拠点に活動し彼らの居留地であった福江島の唐人町には航海の安全を祈願した明人堂も建立されました。また王直は、種子島の鉄砲伝来にも関係しており、それ以前に五島に鉄砲が持ち込まれていた可能性も否めません。

【五島藩の概要】

五島藩の成立は、1587（天正15）年、豊臣秀吉が九州を平定した際、五島純玄が15,530石の本領を安堵された時から始まります。

それ以前は宇久姓を名乗っており、時代は源平合戦まで遡ります。五島藩の始祖は壇ノ浦の戦い後、平清盛の弟家盛が宇久島に上陸し、そこから五島列島全域に支配を広げていったとも言われております。その他、松浦党の豪族説、清和源氏の武田説等諸説あります。

宇久氏は鎌倉時代から室町時代にかけて五島全域を統治下に置きます。玉之浦納の反乱により一時衰退する時期もありましたが、宇久盛定が松浦氏の援助により中興を果たしました。

盛定の跡を継いだ18代純定は、キリスト教への傾倒を強め、その子19代純堯はキリシタン大名となりますが、20代純玄は一転してキリシタンの弾圧に転じます。

秀吉の朝鮮出兵に際しては、700名を出兵するも20代純玄が朝鮮において急死し、五島玄雅が継承しました。以後、五島氏は江戸時代を通じて五島藩として続きました。

江戸時代に入り、22代盛利は、五島における中央集権体制を目指し、1634（寛永11）年、各地に散在していた豪族や五島藩士を福江に移住させました。

この頃から深江を福江に、戸の浦を富江と呼ぶようになったのです。江戸時代中期以降は、台風、洪水等の自然災害の襲来に藩の財政は逼迫しました。この災害のため困窮する年貢未納者の口減らしにもなると考え、譜代家臣への奉公制度を許可しましたが、この制度が結果として悪法と言われた3年奉公に繋がるのです。

以後、五島藩は借財に借財を重ね、幕末には大半を借金に頼り、15年の歳

月と2万両を費やしての築城と言われる福江城が完成しました。

【五島とキリスト教】

——五島列島での信仰の足跡——

伝来

フランシスコ・ザビエルの布教が長崎に根付いて

ヨーロッパでは、15世紀初頭から大航海時代が始まり、新たな世界への「冒険」・「新発見」によって世界観を激変させました。特に東洋への関心が高まり、ポルトガルは16世紀の初めに、ゴアとマラッカをアジア貿易の中継地としました。

1543（天文12）年、ポルトガル人は初めて日本の種子島に到達して鉄砲を伝え、1549（天文18）年にはイエズス会の創立メンバーの一人フランシスコ・ザビエルが来日し、キリスト教の布教を始めました。

フランシスコ・ザビエルによって日本に伝えられたキリスト教は、短い期間に広がりを見せました。1570（元亀1）年に開港し、キリシタンの町が誕生した長崎は、やがて日本のカトリック教会の中心となります。日本最初のキリシタン大名大村純忠（1563〈永禄6〉年受洗）によって1580（天正8）年、長崎と茂木はイエズス会に寄進されました。

下五島の布教と発展

アルメイダの布教にはじまる

下五島へのキリスト教伝来は1566（永禄9）年、領主宇久純定が、修道士ルイス・デ・アルメイダ（医師でもある）とロレンソ了斎（日本人修道士）の二人を五島に招いたことに始まります。アルメイダとロレンソから教えを学んだ家臣たちが洗礼を受け、五島最初のキリシタンが生まれました。

下五島城下で家臣が洗礼を受けたことを知った奥浦の人々も洗礼を受けました。

宇久純定の子純堯（すみたか）は、アルメイダの後任の

モンチ神父から洗礼をうけ、ルイスという洗礼名でドン・ルイスと呼ばれました。第19代を継いだ純堯（1567〈永禄10〉年受洗）は、自ら島内を布教して回り、信者の数は増え続け、1579（天正7）年に純堯は亡くなりますが、1601（慶長6）年にはその数は2,000人だと言われています。

弾圧・潜伏時代へ

キリシタンが絶えた島に大村藩から移住

秀吉や家康が、キリスト教徒が増えていくことに脅威を感じて、全国に伴天連追放令や禁教令を出しました。秀吉が伴天連追放令を出した10年後（1597年）に26聖人が殉教します。

26聖人の一人、ヨハネ五島は五島出身で、有馬のセナリヨ※1で学び、天草の志岐から大坂に同行した神父（司祭）の身代わりとなって、捕らえられました。そしてほかの25人と一緒に長崎の西坂の丘で殉教しました。

しかし、秀吉は貿易を優先し、それ以上の取締りをしていません。

家康も当初は貿易を優先して司祭とも会っています。しかし、1612（慶長17）年、1614（慶長19）年に禁教令を出して、取り締まりを開始し、島原の乱後、それは強化され、日本国内ではキリシタンは一人もいなくなると考えられていました。

禁教令下で、当初五島では神父たちによる巡回活動が密かに続けられていましたが、1628（寛永5）年、五島藩はキリシタンの入島禁止を厳しくし、五島でもキリシタンが絶えたと思われていました。

大村藩は、1657（明暦3）年の郡崩れ後、キリシタンに対する取り締まりを徹底しましたが、表面上は仏教徒を装いながら、帳方など三役※2のリーダーを中心に、信仰を守り、7代待ったら再び司祭が来るという予言を信じ続けたキリシタンたちがいました。

1797（寛政9）年から始まった、大村藩から五島藩への農民の公式移住は、結果的には3,000人に達し、そのほとんどが、表面は仏教徒を装い、信仰を隠したキリシタンだったと考えられています。

復活

明治元年にはじまった五島におけるキリシタン弾圧

ペリー来航による開国を機に、パリ外国宣教会の神父たちが来日します。

長崎外国人居留地に接して1865（元治2）年大浦天主堂が建てられると、浦上の潜伏キリシタン十数名が訪れ、プティジャン神父に信仰を告白しました。この「信徒発見」のニュースは、禁教政策の続く日本から密かにバ

チカンにもたらされ、世界宗教史上の奇跡と、大きな衝撃と感動を与えました。しかし、この後、浦上の住民が捕われ、各地に流配される「浦上四番崩れ」と呼ばれる捕縛事件が起きました。これらの事件に対する外国からの非難は激しく、1873（明治6）年には禁教の高札が撤去されました。

五島でも、浦上四番崩れが起きた翌年の1868（明治1）年、久賀島におけるキリシタン弾圧（牢屋の窄殉教事件）が起き、信仰を棄てるように迫られたキリシタンたちの中から、幼い子どもも含む多くの殉教者を生みました。そして五島全域に迫害が広まっていきました。

信仰の証

パリ外国宣教会の神父の指導で未知の教会堂建築に挑んだ棟梁たち

1873（明治6）年、禁教の高札が取り払われると、ようやく、それまで持つことのできなかった（念願の）祈りの家を建てていきました。

五島でも外国人神父による司牧活動が本格化するなか、信徒たちは信仰の自由を得た喜びを、教会堂建築という形であらわしました。これらの教会堂の多くは外国人神父の指導のもと日本人大工※3の手で、キリシタンが密かに信仰を守り抜いた地に建てられました。信徒たちは、決して豊かでない暮らしの中から自分の大切な財産や労力を喜んで教会堂建築のために捧げたのです。

このように、今、五島列島には、50の教会（教会堂の数は53）があり、そのほとんどが、江戸後期海外から移住し信仰を守り抜いた地にあり、いずれも信仰の自由を得た証として、その歴史を背負ったキリシタンの子孫が建てた「祈りの家」なのです。

※4



※5



※1
セミナリヨ：イエズス会が、日本人の司祭や修道士を養成するために設立した初等教育機関（およそ現在の中学校に相当）

※2

三役：（注/三役の呼び方は地域によって異なります）

・帳方（ちょうかた）：バスチヤンと呼ばれる日本人伝道士が伝えたという教会暦（バスチヤン暦）を繰る、組織の最高責任者です。暦を使って、毎年、移動する祝日を調べていたのが帳方でした。

・水方（みずかた）：洗礼を授ける役。授け役ともいいます。

・取次役（とりつぎやく）：洗礼を授ける「水方」の助手役で、洗礼の時、水方が御用分（お授けの言葉）を間違わないように聞く役目や、「帳方」の家に集って、その週の祝日を聞いて帰り、各戸に触れ回る任務をしていました。

※3

日本人大工： 鉄川与助氏（江上天主堂・楠原教会堂・水ノ浦教会堂ほか）、野原与吉氏（堂崎教会堂）、平山亀吉氏（旧五輪教会堂）など

※4

牢屋の窄殉教記念教会堂（久賀）（実際に牢屋のあった場所に建てられています）

※5

旧五輪教会堂（久賀）（明治14年建立/五島市内最古の教会堂）

長崎大司教区現勢統計表 (2021/12/31現在)

小教区	信徒数		
	男	女	合計
福江	547	554	1,101
浜脇	33	35	68
浦頭	130	208	338
奈留	180	180	360
水ノ浦	230	257	487
三井楽	121	180	301
貝津	66	76	142
井持浦	59	49	108

五島の方言 ①

【五島の方言の特徴は、促音便と撥音便が多い。】
 促音便とは・・・「詰まる音」の意味で「ッ」のこと。
 撥音便とは・・・「はねる音」の意味で「ン」のこと。

○五島の促音便の例

「アッ」 秋・開く・悪・蟻・あれ・あいつ

「イッ」 行く・いつ・息

○撥音便の例

「ン」 長い「ナンカ」急ぐ「イソン」山羊「ヤン」

※特別なものとして語源が宗教や古語からきたものもある。

「ジャアッカ」汚いの意味ですが邪悪から転化

「ジャップッ」水たまりの意味ですが邪悪の淵から転化

キリスト教年表

時代	西暦	年号	
室町・戦国時代	1549	天文18	フランシスコ・ザビエル、鹿児島上陸：キリスト教伝来
	1563	永禄6	日本初のキリシタン大名誕生（大村純忠の洗礼） 宇久純定、トーレス神父に医師の派遣を要請
	1566	永禄9	1月：アルメイダとロレンソ、五島にキリスト教を伝える 五島最初の教会堂が奥浦に建つ 7月頃：アルメイダ奥浦湾より五島を去る 12月：モンチ神父による五島初のクリスマスミサ
	1567	永禄10	後の19代領主宇久純堯の洗礼（洗礼名：ルイス）
	1569	永禄12	織田信長、ルイス・フロイスに布教許可
	1570	元亀元	大村純忠とイエズス会が開港協定を結ぶ
	1571	元亀2	長崎にポルトガル船が初めて入港
	戦国・安土桃山時代	1576	天正4
1578		天正6	この頃聖ヨハネ五島、五島に生まれる
1579		天正7	19代領主宇久純堯の死 20代純玄（宇久姓から五島姓へ）による迫害開始 多くのキリシタンが長崎へ逃れたと考えられる
1580		天正8	大村純忠、長崎と茂木をイエズス会に寄進
1582		天正10	天正少年使節がローマへ出発。織田信長が本能寺の変で自害
1587		天正15	大村純忠没す 豊臣秀吉がバテレン追放令を發布しキリスト教布教禁止
1588		天正16	豊臣秀吉、長崎・茂木・浦上を直轄地とする
安土桃山時代		1597	慶長2
	1601	慶長6	この頃五島に信徒が約2000人となる
江戸	1603	慶長8	徳川家康、江戸幕府を開く
	1606	慶長11	21代領主五島玄雅、神父の居住を許可

※
青文字は五島の歴史

江戸時代	1611	慶長 16	神父が来島し、城下に教会堂を建設
	1612	慶長 17	幕府、天領などに禁教令布告、京都の教会堂を破壊
	1614	慶長 19	幕府、全国に禁教令布告 高山右近、国内の宣教師らはマカオ、マニラへ追放 22代領主盛利は領内のキリシタンを追放
	1624	寛永元	領主五島盛利の弾圧によって伝道士クエモン、ポウロ 金左衛門、ミカエル鳥居甚之丞五島で斬首される
	1628	寛永 5	キリシタン入島禁止の高札が立つ。迫害が強化される この頃、長崎で踏絵が始まる
	1633	寛永 10	第一次鎖国令
	1635	寛永 12	日本人の出入国禁止
	1637	寛永 14	島原・天草の乱勃発（～38） 五島藩から島原へ出陣
	1640	寛永 17	幕府に宗門改役を置く
	1644	正保元	このころ小西マンシヨ神父殉教。以降国内では神父不在となる
	1657	明暦 3	大村郡崩れで 400 人以上殉教
	1758	宝暦 8	領内で絵踏による宗門改めが行われる
	1772	安永元	大村領農民70人が三井楽・淵の元へ最初の移住とも 1773年、1776年にも移住
	1790	寛政 2	長崎の浦上でキリシタン 19 名が捕えられる（浦上一番崩れ）
	1797	寛政 9	大村領（外海方面）農民第一回公式移住108人 六方の浜に上陸し平蔵、黒蔵、楠原などに入植
	1839	天保 10	浦上からの移民十数戸が三井楽・嶽に入植したという
1858	安政 5	長崎奉行絵踏を廃止する布告を出す 幕府と欧米 5 カ国との修好通商条約を締結	
1862	文久 2	二十六殉教者列聖される ヨハネ五島、二十六聖人の一人として列聖	

江戸時代	1865	慶応元	大浦天主堂献堂（元治2） プティジャン神父による信徒発見（元治2） 若松村のガスパル与作が五島の人として初めてプティジャン神父に会い、その後、上下五島のキリシタンの代表らが次々にプティジャン神父のもとを訪れる 中村長八神父、奥浦で生まれる
	1868	慶応4	明治維新 新政府、五榜の立て札を全国に掲示し、キリシタンを禁じる（慶応4年3月15日） 諸外国の抗議にも関わらず1867年に勃発した浦上四番崩れ第一次流配（114人）（慶応4年6月1日）
明治時代		明治1	久賀島牢屋の窄の迫害（明治1年9月）
	1869	明治2	五島全域に迫害が拡大
	1870	明治3	1月：鯛ノ浦6人斬り事件
	1873	明治6	キリシタン禁制の高札撤去／フレノー神父来日 浦上四番崩れ流配者の釈放、帰還 フレノー神父来島し、堂崎の浜でクリスマスミサを司式
	1877	明治10	フレノー、マルマン神父等が上・下五島を巡回
	1879	明治12	鉄川与助、上五島に生まれる マルマン神父が下五島地区の主任司祭として着任
	1882	明治15	マルマン神父により堂崎教会堂が建てられる（一説には明治14年建立とも）
	1888	明治21	ペリユー神父が主任司祭として堂崎教会に着任
	1889	明治22	大日本帝国憲法発布（信仰の自由を明文化）
	1899	明治32	井持浦に日本初のルルド創設（翌年祝別）
大正	1923	大正12	中村長八神父がブラジルへの司牧・宣教へ出発
昭和	1939	昭和14	第二次世界大戦勃発
	1945	昭和20	広島に原子爆弾投下 長崎に原子爆弾投下 浦上教会堂など崩壊。終戦
	1981	昭和57	教皇ヨハネ・パウロ2世長崎で57,000人のミサを司式

五島の方言 ②【五島べん】

あが	お前・君
けんまか	小さい
あがだ	お前たち
げさっか	下品
いが	赤ん坊
ごろっと	みんな
いげ	とげ
こってうひ	牡牛
いっなっか	意地悪
さるく	歩く
うひ	牛
しゃー	おかず
うん	海
ざあーまに	沢山
うんたか	重たい
ずし	雑炊
え	家
すめる	しぼる
えずらしか	きみが悪い
せく	急ぐ又は閉じる
ええこっじゃなか	とんでもない
せからしか	うるさい
おっが	おれ・私が
せっちん	便所
おもひろか	面白い
そびく	引く
かか	母親
たっもん	薪
ぎばっ	働く
ちんたか	冷たい
くどめっ	ぐちをこぼす
ちんぐ	仲良し

教会堂

五島市には 21 の教会堂があります。

(福江島 13、久賀島 4、奈留島 3、嵯峨島 1)

その中から抜粋した教会堂の説明です。

【現存する教会堂（建立年順）】

	教会堂（現存）	献堂（現教会堂）		保護者
1	(旧五輪教会堂) ※1 【廃堂】 [久賀島]	明治14年	1881年	聖ヨセフ
2	堂崎教会堂	明治41年	1908年	日本26聖人殉教者
3	楠原教会堂	明治45年	1912年	聖家族
4	江上天主堂 [奈留島]	大正 7年	1918年	聖ヨセフ
5	嵯峨島教会堂 [嵯峨島]	大正 7年	1918年	ロザリオの聖母
6	半泊教会堂	大正11年	1922年	聖パトリック
7	貝津教会堂	大正13年	1924年	使徒聖ヨハネ
8	浜脇教会堂 [久賀島]	昭和 6年	1931年	イエスのみ心
9	水ノ浦教会堂	昭和13年	1938年	被昇天の聖母
10	南越教会堂 ※2 【閉堂】 [奈留島]	昭和32年	1957年	大天使ミカエル
11	奈留教会堂 [奈留島]	昭和36年	1961年	聖フランシスコ・ザビエル
12	福江教会堂	昭和37年	1962年	イエスのみ心
13	玉之浦教会堂	昭和37年	1962年	聖フランシスコ・ザビエル
14	浦頭教会堂	昭和43年	1968年	聖ベトロ・聖パウロ
15	宮原教会堂	昭和46年	1971年	聖ドミニコ
16	三井楽教会堂	昭和46年	1971年	諸聖人
17	打折教会堂	昭和48年	1973年	諸聖人
18	繁敷教会堂 【閉堂】	昭和49年	1974年	大天使ミカエル
19	牢屋の窄殉教記念教会堂 [久賀島]	昭和59年	1984年	殉教者の元后
20	五輪教会堂 [久賀島]	昭和60年	1985年	聖ヨセフ
21	井持浦教会堂	昭和63年	1988年	ルルド出現の聖母

※1 旧五輪教会堂ではミサは行われていません（現在は五島市の管轄）。

※2 教会堂の見学はできません。

【五島市内の教会群（抜粋）】

【旧五輪教会堂】

「現教会堂の建立年/1881（明治14）年」「保護者/聖ヨセフ」

○1999（平成11）年国の重要文化財に指定

○2018（平成30）年「久賀島の集落」として世界文化遺産の構成資産に登録



※現在は教会の役目を終え五島市が管理

・長崎県に現存する教会堂建築として、国宝の大浦天主堂の次に古い木造教会堂

・瓦葺きの木造平屋の和風建築で内部は三廊式のリブ・ボールド天井であり初期の教会建築

・牢屋に閉じ込められた人たちが自由になったあと祈りの場として建てた教会堂

・禁教令下で起きた「五島崩れ」を乗り越え、久賀島でも禁教の高札撤去後、長崎から外国人神父が巡回し1880（明治13）年から、下五島地区の主任司祭として赴任したマルマン神父の時代、高札撤去から8年後の1881（明治14）年、久賀島で最初の教会堂として、浜脇に建てられました。

築50年を経過して台風に強いコンクリート教会堂を建てることになった時に五輪地区の人たちが自分たちの集落にも教会堂がほしいということになり、1931（昭和6）年、丁寧に解体し、木箱に詰め、筏で運び五輪地区に移築したものです。

その後、1985（昭和60）年、潮風によって痛みが激しくなり建て替えられることになりましたが、解体寸前、文化財として価値ある建築物を守ろうとの声が起こり、旧五輪教会堂は当初の姿で保存されることになりました。新しい教会堂はすぐ横のイワシ缶詰工場跡地に建てられています。

行き方：①海上タクシーで五輪前まで。料金は時季により異なります。

②定期船+タクシー（小型タクシー往復約7千円・大型タクシー往復約1万1千円）

*令和5年2月現在の料金

【牢屋の窄殉教記念教会堂】

「現教会堂の建立年/1984（昭和59）年」「保護者/殉教者の元后」・牢屋の窄は、久賀島の松ヶ浦にあり、1868年10月末（明治1年9月）に始まる久賀島でのキリスト教徒に対する迫害で、200名余りの信徒が入れられ、殉教者を出した6坪の牢があったところ。



1957（昭和32）年、ここで「牢屋の窄」殉教90年を祈念する式が行われ、すでに建てられていた記念碑（信仰の碑）も顕彰されました。

1969（昭和44）年「カトリック信徒因獄の跡」碑を設置しました。また、島の人口減少により永里教会堂、細石流教会堂、赤仁田教会堂を合併して、記念碑（信仰の碑）がある殉教地跡の近くの、（払下げとなった）発電所を買い取って改装し、「牢屋の窄殉教記念教会堂」としました。

1980（昭和55）年には、牢死者42人の碑が建立され、1984（昭和59）年、老朽化のため、殉教地に現在の聖堂が完成しました。

信仰の碑の陶板レリーフは、2011（平成23）年に設置されたもの。迫害を乗り越えた200人余りの信徒たちの力強い信仰が表現されています。

現在教会堂の内部は床のじゅうたんが色分けされ牢の広さが一目でわかるようになっています。毎年10月に先祖の信仰にならい、殉教者をたたえるため殉教祭が行われています。

【五島崩れ】とは

久賀島からはじまり、五島各地へ広がった迫害のこと。久賀島では1868（明治1）年潜伏キリシタンが自ら信仰を表明したために捕えられ、12畳ほどの狭い牢に約200名押しこめられました。これは畳1枚に17人という狭さで、横になることもできず排泄もその場にしなければならぬという想像を絶する惨状でした。信徒たちは約8か月にわたりこの状況を耐え忍びましたが、餓えや病、拷問のため39名が死亡し、出牢後死者3名が加わり42名が命を落としました。信者は解放され家に帰宅したものの、家の中には奪略で農具一つ残っていなかったそうです。その年は芋のつるなど

を食べて忍んだと言われています。このことは海外から批判されキリシタン禁制の高札撤去の一因となりました。

【江上天主堂】

「現教会堂の建立年/1918（大正7）年」「保護者/聖ヨセフ」

○鉄川与助設計施工。2008（平成20）年国の重要文化財に指定

○2018（平成30）年「奈留島の江上集落」として世界文化遺産の構成資産に登録

①湿気を避けるために高床式

②手描きの窓ガラス

③柱など竹べらやははけで木目模様を描いた

*我が国の木造教会のうち完成度の高い建物として歴史的価値に優れ小規模ながら教会建築の鉄川与助の代表作とされています。

・江上天主堂の歴史は1881（明治14）年3月に潜伏キリシタンの4家族が洗礼をうけたことに始まります。この4家族の先祖は大村藩（今の長崎市外海方面）から移住してきました。1881年当時は信徒の家でミサが行われていました。1917（大正6）年40～50戸でタブの木を伐り払って敷地を造成しました。建築資金はその頃キビナゴが大量にとれそれで得た収入などを出し合いました。神のお恵みだと喜び翌1918（大正7）年3月に完成させました。

（平成27年6月現在信徒数2名）



【堂崎教会堂】

「現教会堂の建立年/1908（明治41）年」「保護者/日本26聖人殉教者」

○1974（昭和49）年に県の重要文化財に指定

○潜伏キリシタンから復帰への重要拠点



・1873（明治6）年キリシタン禁制の高札が撤去された後、フレノー神父が福江島を訪れ堂崎教会の前の浜で野外クリスマスミサが捧げられたとい
います。

1879（明治12）年には教会堂が大泊に、1880（明治13）年には堂崎に
建てられました。

1880（明治13）年から下五島の司牧を任されたマルマン神父が、間引き
など困窮で葬られる子どもの話に心痛め、子部屋とよばれた児童養護施設を、
1880（明治13）年、大泊につくりました。

堂崎に教会堂が新しく造られたあと子部屋もそばに新築され「養育院」と
よばれ、後にペリユー神父に引き継がれます。

堂崎に教会堂が新しく造られたあと小部屋もそばに新築され「養育院」と
よばれ、後にペリユー神父に引き継がれます。これらは地域の熱心な女性
信徒の協力によって行われ、女性たちは堂崎に施設が移ったころから共同
生活をはじめ、現在のお告げのマリア修道会の前身の一つになっていきます。
ペリユー神父が1893（明治26）年から全五島を統括するようになると、
堂崎が司牧の拠点になったようです。

1907（明治40）年ペリユー神父の指揮のもと、煉瓦造りの現在の教会堂
が完成し翌1908（明治41）年に献堂式が行われました。

<堂崎教会堂内：キリシタン資料館>

マリア観音：キリシタン禁制の時代、潜伏キリシタンが信仰偽装のため中
国や平戸で焼かれた白磁の観音像をサンタマリアとみたてて崇めたもの。

オラショ：ラテン語で「祈り」という意味です。

潜伏の時代キリシタンたちは、密かに祈りの言葉を口伝で伝えました。
天主堂内にあるオラショは禁制が解かれた後に書き留めたものです。

踏 絵：江戸幕府が禁教当時、キリスト教の信者を棄教させ、発見するた
めに踏ませた絵をいいます。1628年頃から長崎で始まり、その後各地で
行われ、1664（寛文4）年には宗門改め役が置かれました。1858（安政5）
年、長崎奉行は絵踏みの廃止の布告を出しました。

※絵踏みをするという、大切な方を踏みつけ
る「罪」の繰り返しに潜伏キリシタンたちは
苦しみ続けました。司祭がいないので司祭を
通してする告解（カトリック信徒は、魂が救
われるためには告解をする義務があります）



ができず、代わりに「痛悔の祈り（こんちりさん）」をして、再び司祭が来るのを7代待ち続けていました。



<堂崎教会キリシタン庭園>

○アルメイダの宣教碑「出会いの日」

1566（永禄9）年、五島18代領主宇久純定の招きにより、キリスト教の教えを説いている二人の修道士、アルメイダ（ポルトガル人）とロレンソ（日本人）の様子です。

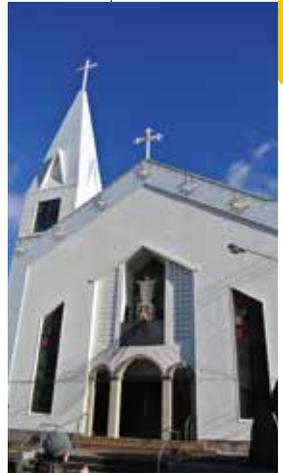


○聖ヨハネ五島殉教像「受難のとき」

1597（慶長2）年、豊臣秀吉の命令により、長崎で殉教した26聖人の一人で、五島出身である19歳のヨハネ五島です。

○自由と愛の使者「復活の夜明け」

マルマン神父とペリユー神父と子供たちの像。神父たちによる福祉事業の創始などを記念するものです。



【福江教会堂】

「現教会堂の建立年/1962（昭和37）年」「保護者/イエスのみ心」

・1962（昭和37）年9月（建築から5か月後）原因不明の出火により約4000人が被災にあった「福江大火」で市街地の大部分が焼失しましたが、教会堂は焼失を免れ、焼け跡にそびえ立つ教会堂が復興のシンボルとして被災者を勇気づけました。

・信徒数約1100名の、五島列島で最も信者数が多い教会です（2021年12月末現在）

・福江教会の歴史は1896（明治29）年に久賀島から最初の信徒が福江地区に移り住んだことに始まります。

【水ノ浦教会堂】

「現教会堂の建立年/1938（昭和13）年」「保護者/被昇天の聖母」

・和風、ロマネスク、ゴシックスタイルが混在した教会堂
・日本に現存する木造教会堂で最大規模といわれています

・設計施工は鉄川与助、当時雲仙に建てる予定だった教会堂が諸般の事情によりとりやめとなりその資材をそのまま買い受けて建築

・水ノ浦教会の歴史は1797（寛政9）年外海から渡った潜伏キリシタン5人の男性とその妻子らの移住に始まります。大浦天主堂建築1865（元治2）年の一年後、上五島の信者が水ノ浦に来て大浦天主堂のことを告げました。その後3名の信者が長崎に行きプティジャン神父に会いメダイや十字架をもらい帰島しました。そして伝道士を招き、教理を勉強し、信仰心を深めていきました。しかし、1868（明治1）年、久賀島や頭ヶ島、奥浦などで信徒たちが捕えられ、水ノ浦でも1868（明治1）年12月25日水ノ浦の帳方の家でお祈りしているところを捕えられました。その後、姫島、楠原、打折の信徒も捕えられました。軟禁状態で昼間は畑を耕し夜は棄教しろと責め苦を受けました。翌年には牢から解放されましたが主だった8名はさらに2年あまり牢内に留め置かれました。

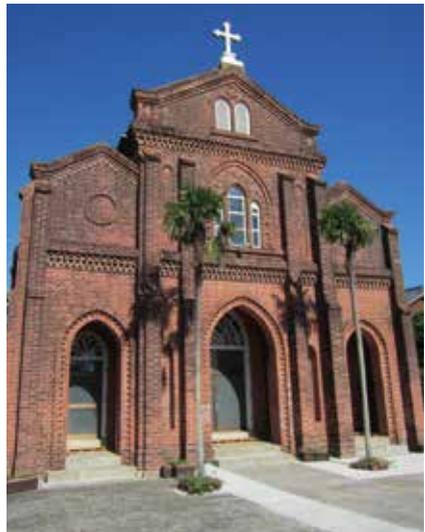


【楠原教会堂】

「現教会堂の建立年/1912（明治45）年」
「保護者/聖家族」

・ゴシック様式の煉瓦造りで内部はリブ・ウォールト天井の教会堂。

・楠原は、1797（寛政9）年大村よりの公式移住の第一陣108名のうち一部が移住した地域です。水ノ浦のキリシタンが捕縛されて間もなく楠原の信徒も捕えられ、帳方の家を牢として監禁されました。



1912（明治45）年に建てられた現在の教会堂は、教会建築100周年記念（2013年）に改修工事を行い新しいステンドグラスなどを入れお祝いをしました。

【貝津教会堂】

「現教会堂の建立年/1924（大正13）年」「保護者/使徒聖ヨハネ」

- ・ステンドグラスを通して差し込む赤や青、緑の鮮やかな光の芸術が素朴なぬくもりのある空間が人気の教会堂です。
- ・外海地方から三井楽の古田や玉之浦の頓泊に移住した潜伏キリシタンが、その後竹山集落に再移住したことから貝津教会の歴史が始まりました。
- ・1962（昭和37）年、老朽化のため大幅な増改築がなされ、屋根の小さな尖塔はこの時新たに付け加えられたものです。



【三井楽教会堂】

「現教会堂の建立年/1971（昭和46）年」「保護者/諸聖人」

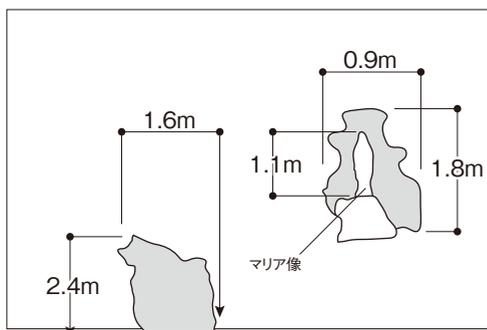
- ・教会外壁正面は諸聖人をテーマにした陶器の壁画。
- ・壁画の上の文字の Fides（信仰）・Spes（希望）・Caritas（愛）はキリスト教の対神徳といわれています。
- ・教会堂内のステンドグラスは宗教を超えて仏教徒とカトリック信者が、ボランティアで一つ一つ作り上げたもので2005年に完成しました。
- ・三井楽教会の歴史は、大村藩から潜伏キリシタンの農民が淵ノ元へ移住したのがはじまりです。また1839（天保10）年浦上二番崩れの後、放免された信徒の一部も三井楽に住みついたといわれています。



【立谷教会堂跡】

・玉之浦地区に、1880（明治13）年前後に建てられたという（建立年については諸説あります）、聖パウロ・聖ペテロに捧げられた

立谷教会堂がありました。マルマン神父は、立谷教会に巡回して、島山島、井持浦などの信徒の世話をしていたよう



です。

1999（平成11）年に、教会堂内にあった聖母像を安置して祈りの場として整備しています。

【井持浦教会堂】（いもちうら）

「現教会堂の建立年/1988（昭和63）年」「保護者/ルルド出現の聖母」

・1899（明治32）年島内から信者が岩石を多数集め、ペリユー神父の指導のもとフランスのルルド（聖母出現の地）を模した洞窟を造りました。完成後ペリユー神父は、母国フランスからルルドの奇跡の水を取り寄せ井戸に注ぎ入れ、同じくフランスから取り寄せた聖母像を洞窟に収め日本初のルルドとしました。

・玉之浦地区は五島の迫害の嵐が吹き荒れたとき、唯一迫害を逃れた地区です。潜伏時代は大宝寺の仏教の檀家として生活をしていました。

「フランスのルルドの水とは・・・」

ひとくち
メモ

1858年フランスとスペインの国境になっているピレネー山脈のふもとの小さな町で14歳の少女ベルナデッタの前に聖母マリアが（2月11日から7月16日までの間）18回出現しました。聖母が指差したところを掘ると水が湧いてきて泉となり、その水を飲むと難病が治ったという報告が多数あり、その後バチカンも聖母の出現を認め、今日では世界的な巡礼地となっています。（年間約600万人の巡礼客）ベルナデッタはシスターとなり35歳の若さで生涯を終え、今も朽ち果てることなく眠っています。1933年に列聖されました。

【教会建設の基本スタイル】

step 1

古代ローマ時代、裁判や集会などがおこなわれたパジリカ（ギリシャ語で大広間という意）という単純な柱廊



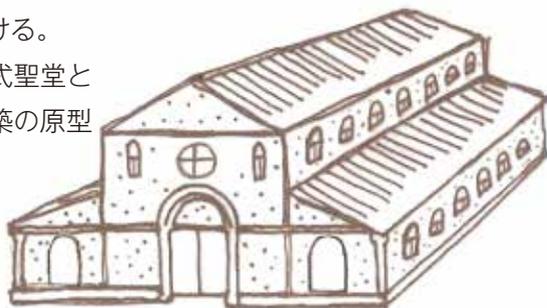
step 2

やがて回廊となり



step 3

そして回廊の中庭を屋根で覆い玄関を設ける。
これがパジリカ式聖堂といわれる教会建築の原型のひとつ。



【煉瓦の組積法】

●イギリス積



小口の層と長手面の層を交互に積み上げる。経済的で最も一般的。

●アメリカ積



長手面5~6層毎に1層小口面を積み上げる。(堂崎教会堂)

●フランス積



同じ層に長手面と小口面を交互に並べて積み上げる。美しいが構造上弱い。(福見教会堂脇出入口部)

【教会のステンドグラス】

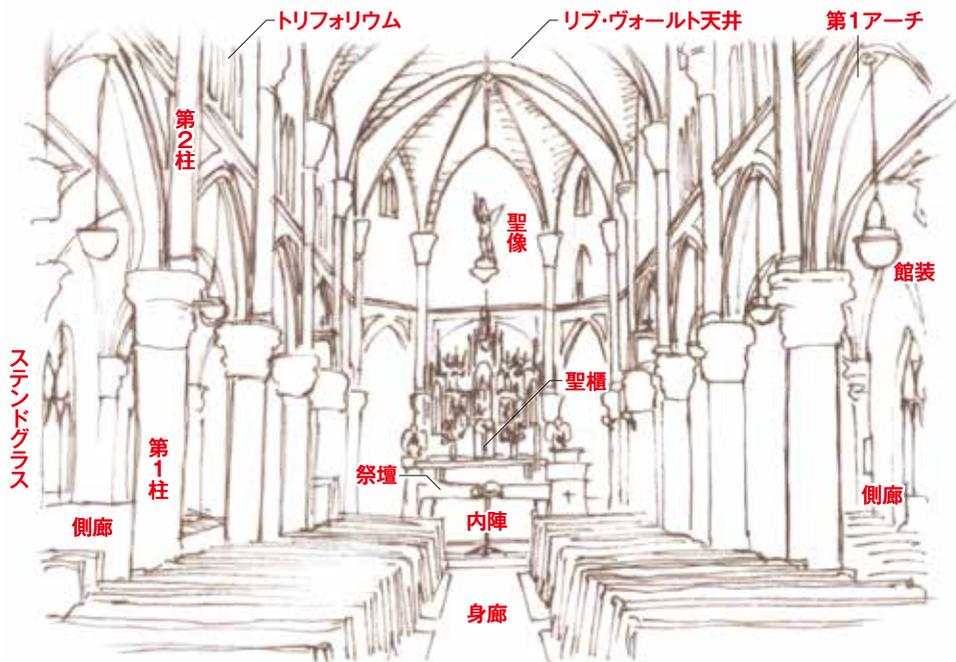
ステンドグラス

ステンドグラス

「神は世の光である」。ステンドグラスの光は教会建築の中で重要な要素の一つ。花紋様、幾何学紋様、聖画ガラス絵、木枠のものなどさまざま。午前10時、午後4時頃の日射しが最も美しい。正面入口上の円窓を特に薔薇窓という。



【教会の内部】



【聖のイコノグラフィー】

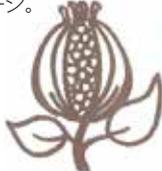
カトリックの教会で目にする聖像や聖具、シンボルにはさまざまな宗教的な意味合いがあります。意匠には、聖書の一節をモチーフにしたものが多く見られます。

バラの花

マリアの象徴。信者が祈りの時に使う数珠様のものを「ロザリオ」といい「バラの花冠」という意味。

柘榴（ざくろ）

一つの実に無数の種が収まっていることから多産・豊穡、また教会そのもののイメージ。



冠

偉大さ、力強さ、栄光の象徴。冠は茨の冠が昇華したもの。「被昇天の聖母」「天の元后」のマリアも戴冠している。

ペリカン

雄のペリカンが自分の胸を突いて流れ出した血を雛に飲ませる図像は、自らを犠牲にするキリストを表現。

心臓

聖人が手にしている場合は愛と敬虔のシンボル。矢に貫かれた心臓は悔恨、深い改悛、試練に耐える献身。

XP(キー・ロー)

ギリシャ語でXPISTOS(キリスト)の最初の二文字。



クローバー

三位一体(父と子と聖霊)。

鳩

特に白鳩は聖霊のイメージ

麦

聖体の象徴。慈悲深さ。東で示すときは感謝。葡萄と組み合わせると聖体祭儀を表わす。



卵

命、誕生、再生のシンボル。復活祭で卵を配るのはそのため。

魚

ギリシャ語で魚はICHTYS、これが「イエス・キリスト神の子救い主」の頭文字と一致するのでキリスト自信のシンボルとされる。

月、星、太陽

「太陽を着て、足の下に月を踏み、その頭に12の星の冠をいただいていた」というヨハネの黙示録の一節をモチーフにした聖母像に多く見られる。

INRI

十字架のキリストの頭上に掲げである看板の文字。ラテン語Iesus Nazarenus Rex Iudaeorum(ユダヤ人の王ナザレのイエス)の頭文字。

白百合

純潔の象徴。マリアのイメージ。右手に百合の花を持った男性の像は、マリアの夫ヨセフ像。祭壇や柱などの装飾にも多く見られる。

葡萄

聖書ではオリーブとともに聖なる植物とされ葡萄酒は聖なる飲物であり、キリストの血の象徴としてミサに使われる。



炎

舌状に表現される火は殉教と信仰への情熱を表し、聖霊降臨の図像では使徒たちの頭上に表現される。

獅子、蛇、竜

邪悪のシンボル。「無原罪の御孕り」や「無原罪の聖母」ではマリアがこれらのどれかを踏んでいる。

IHS

ラテン語でIesus Hominum Salvator(イエス人間の救い主)の略。

AとΩ

ヨハネの黙示録「わたしはアルファーにしてオメガである」から、キリストが世界の原理であることの象徴。



教会堂を訪れる際に知っておきたいミニ知識

【教会堂にある大切なもの】

教会堂の中には知っておきたいいくつかのポイントがあります。祈りの場所として信徒たちが大切に守っている空間にあるものです。訪れる際はマナーを守り拝観しましょう。

■^{ないじん}内陣

ここには、朗読台と祭壇が置かれており、もっとも神聖な場所です。聖職者以外は立ち入りできません。



■^{せいひつ}聖櫃

ミサ（カトリックの最も重要な祭儀）で聖別された聖体（パン）を安置しておく所。聖体はミサの中で信者に授けられますが、ミサに来れない病者や、特に死の危機に臨んだ人に最後の糧（かて）としても授けられます。通常、聖櫃は内陣の祭壇の背後か、脇のふさわしいところに置かれていて、聖体が納められている場合は、聖体ランプが灯されています。



■^{みちゆき}十字架の道行

キリストが十字架を担^{にな}って歩んだ道（アントニア城からゴルゴタの丘まで）のことをさします。キリストの逮捕から埋葬までを14の各場面として表示するため、十字架と絵や彫刻などが教会堂の壁に掲げられています。第1留（りゅう：とどまるという意味）から第14留まで、順番に黙想し祈るようになっています。



※できるだけ公共のトイレを使用してください。

※教会堂の取材・メディア関係のお尋ねは、長崎大司教区のホームページをご覧ください。

(<https://www.nagasaki.catholic.jp/>)

寺社仏閣

五島は、日本では、歴史に翻弄されたキリスト教が有名な島です。

しかし、歴史をひも解いてみると、実は空海と深い関わりをもっていることがわかります。五島にも八十八カ所の札所が定められています。

■ 神社

白鳥神社 玉之浦エリア

- ・ 遣唐使も安全祈願に参拝した神社
- ・ 白鳥神社社叢（県・天然記念物）
- ・ 白鳥神社例祭
- ・ 狛犬ではなく馬の像

海岸沿いに建つ白鳥神社は五島で五社神社に次ぐ2番目に古い神社。42代文武天皇が大宝2年日本武尊（ヤマトタケルノミコト）を守護神として祀りました。湾内に向かって神社が鎮座しており海上から直接参拝出来るようになっています。

● 遣唐使も安全祈願に参拝した神社

804（延暦23）年第16次遣唐使の第2船（最澄が乗船）が暴風を避けて玉之浦に停泊。その際、白鳥宮に参拝し安全を祈願。

● 白鳥神社社叢（県指定天然記念物）

長崎県下では男女群島について温暖な所で、その風土をよく代表する常緑樹が数多く生育している社叢です。

八幡神社 福江エリア（下大津）

- ・ 五島の総鎮守

「お八幡さん」と尊敬と親しみを持って呼ばれています。宇久島から宇久家が福江島に渡ったのが1383（弘和3）年ですが、第10代宇久基が、1447（文安4）年に宇久島の飯良八幡宮を現在の福江大津の地に奉還して正八幡宮と称しました。（五島雑学事典より）

五社神社 福江エリア（上大津）

- ・ 五島最古級の神社
- ・ 肥前型鳥居（筥崎鳥居）



695（持統天皇9）年に地主大神宮として現在の大津の高台に仮宮が建てられて、30年後社殿造営し鳥居を建てた神社の体裁を整えた。第9代宇久勝が岐宿から福江に移った際ここを氏神と決めました。（五島雑学事典より）

1614（慶長19）年、それまでの居城であった江川城を焼失した第22代五島盛利は、（中略）その難工事も無事に成就したので、1638（寛永15）年、“千早ぶる 神の御前の石鳥居 くちはさせまじ 八百万代も”という歌とともにこの鳥居を奉納しました。

■ 寺院

明星院(みょうじょういん) 福江エリア(吉田町)

- ・銅造如来立像
(国・重要文化財)
- ・木造阿弥陀如来立像
(県・有形文化財)
- ・明星院本堂
(県・有形文化財)
- ・五島八十八カ所
1番札所
- ・阿弥陀如来立像

五島に於ける真言宗の本山であり最古の歴史を持っています。空海が唐より帰朝の際(806年)参籠して満願の日、東の暁の明星を拝して、「好きかな、この朝のすがすがしさ」と言われたので宝珠山吉祥寺明星院と称するようになったと伝えられています。後、藩公の祈願寺となり庶民の出入りを禁じたため、創建その他不明であったが、文化庁によって、国宝級の銅像薬師如来像など貴重な仏像や仏具が次々と発見されている由緒ある寺です。



現在の本堂は第28代盛運(もりゆき)が1778(安政7)年に建立したもので、檜の芯柱を20本用いた五島最古の木造建築物。格子天井の花鳥の絵は狩野派の流れをくむ五島藩のおかかえ絵師、永章藤原玄能(後養子となって大坪玄能)の筆になるもので総数121枚の絵は色鮮やかに保存され、厳しい鎖国下にあつてオウム、極楽鳥などの伝説の鳥、花を描いているのも珍しく、貴重な文化財です。また、一般の者が立ち入れなかったため、堂内も余り広くありません

神社仏閣

大宝寺(だいほうじ) 玉之浦エリア

- ・空海が改宗した「西の高野山」
- ・梵鐘(県・有形文化財)
- ・五島八十八カ所
88番札所

昔、天竺(今のインド)のマガダ国から不須仙人が、エンブダコンという堅牢な金属で鑄造された一寸八分の聖観音像を奉拝し、玉之浦の笹海の丘に観音院を建立しました。701(大宝1)年に震旦の道融和尚が三論宗を広めるために来島し、現在地に観音院を遷しました。



806(大同1)年に空海が帰朝の途次、大宝の浜に上陸し暫く滞在して真言宗に改宗したことから「西の高野山」とも言われています。弘法大師は亡くなってから醍醐天皇からいただいた「おくり名」

金福寺(きんぷくじ) 岐宿エリア

- ・宇久家8代覚公墓
(県・史跡)
- ・五島八十八カ所
53番札所

岐宿町にあり、曹洞宗寺院。宇久島から岐宿に上陸した第8代宇久覚が1383(弘和3)年岐宿に移住した時に創建。岐宿在世6年でこの寺の墓所に葬られています。1868(明治1)年、神仏分離令で巖立神社から弥陀勢至観音を移し本堂に安置して本尊となっています。(五島雑学事典より)



五島 八十八カ所 札所 全体マップ



空海記念碑「辞本涯」

オレンジロード
(遊歩道)

長崎島

京ノ岳

みいらく
三井楽

丑ノ浦阿弥陀堂 62

道の駅
遣唐使ふるさと館

浜ノ畔里行者堂 59

60 浜ノ畔竈行者堂

58 良永寺

57 大川原地蔵堂

56 淵ノ元観音堂

81 小川原地蔵堂

貝津阿弥陀堂 63

高浜ビーチ

66 志田尾薬師堂

68 松山地蔵堂

65 通福寺

丹奈観音堂 64

69 山内坂上地藏堂

70 山内高田地蔵堂

71 山内柿ノ木場地蔵堂

72 南部地藏堂

67 井出閑地藏堂

73 二本楠地藏堂

荒川温泉

83 寶泉寺

84 荒川地藏堂

78 上ノ平地蔵堂

79 天福寺

82 中須釈迦堂

玉之浦観音堂 86

85 西方寺

80 小川地藏堂

大瀬崎灯台

87 大宝寺護摩堂

88 大宝寺

76 妙泉寺

とみえ
富江

行者山

きしく
岐宿

- 福江地区 1番～50番
- 岐宿地区 51番～57番、65番～73番、81番
- 三井楽地区 58番～63番
- 富江地区 74番～77番
- 玉之浦地区 64番、78番～80番、82番～88番



神社仏閣

五島札所 ピックアップ コース

島全体に点在する五島八十八カ所。すべてクルマで回ると4日かかる行程です。普段足を運ぶことがない札所を巡るコースとして、ご紹介いたします。五島の文化を理解していただく手段のひとつとして、お客さまにご紹介していただき、私たちも五島を再発見してみましょう。

自転車で気軽にまわってみよう

自転車を使うと迷路のような道も楽しみながら体験できる3時間コース

六角井戸は、1540年にやってきた明国の王直が飲料水として掘った、日本にはない六角形のめずらしい井戸がある。



26宗念寺には、伊能忠敬の測量隊として同行し福江で病死した坂部貞衛の墓所がある。



START
武家屋敷通り
ふるさと館
GOAL



武家屋敷通り



29観音寺



26宗念寺

27宗念寺
太子堂



六角井戸
(中国式の井戸)

16唐人町
地藏堂

明人堂
(明の貿易商の堂)

17櫻河
地藏堂

明人堂は、貿易商として明国の王直が居館を深江(福江)に構え朝夕の祈りと航海の安全を祈ったと言われている。

24水主町
観音堂

23向町
地藏堂

18松山
地藏堂

石田城

蛭子神社

20胎蔵界
大日如来

19金剛界
大日如来

大日山では、ウォーキングも楽しめる。(ゆっくり歩いて往復25分 往路15分 復路10分)展望台があり福江港や福江の町並みを見ることが出来る。また、ゲゲの水木しげるが訪れ「妖怪画談・ガータロ」の題材になっている場所でもある。



150年前に石田城を築く際に防波堤と灯台の役割として建てられた。

常灯鼻



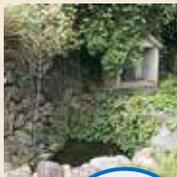
日本で最後に建てられた城は、当時は海に面しており日本でも珍しい「海城」だった。



パワーを感じてみよう

福江港から約35分の三井楽町には、遣唐使ゆかりの場所がある。遣唐使ふるさと館から3時間のコース

岩嶽神社は、客死した遣唐使の従者の霊を祀ったと言われている。その20m東にあるふぜん河は、遣唐使船の水を補給に使われたと言われている。



START

58 良永寺

59 浜ノ畔里行者堂

60 浜ノ畔電行者堂

61 柏観音

岩嶽神社
ふぜん河



59浜ノ畔里行者堂には、高野山の三本松葉より少長めの三本松葉がある。お財布にいれるとお金が貯まると言われている。



空海記念
「辞本涯」

この三井楽地区は、空海記念碑「辞本涯」がある。空海が日本の見納めの地として旅立つときの言葉で、日本の地の涯を辞するといった意味。

オレンジロード

GOAL

貝津
八十八ヶ所

63 貝津
阿弥陀堂

63 丑ノ浦
観音堂

瀬ノ元
カトリック
墓碑郡

魚藍観音展望台から見た高浜ビーチ(日本の渚100選、快水浴場100選)は是非見てほしい。この展望台の向かいに貝津八十八ヶ所がある。健脚の方にぜひ登って欲しい。

魚藍観音
展望台



瀬ノ元カトリック墓碑郡は、海面に面し十字架の墓碑とマリア様の像が並んでいる。夕日撮影のスポットとして最高。

神社仏閣

空海が残した密教の原点を見てみよう

福江港から約1時間の玉之浦町は、空海が密教を初めて日本に伝えた場所と言われている。一日コース

START

64 丹奈
観音堂

83 賈泉寺

84 荒川
地藏堂

82 中須
観音堂

井持浦教会堂
ルルド

大瀬崎灯台



GOAL

88 大宝寺



井持浦教会堂ルルドは、フランスのルルドを模倣した日本初の聖地。



大瀬崎灯台は、映画「悪人」の撮影場所にもなった。9月の下旬から10月上旬に大型のタカ、ハチクマが越冬のために「渡り」が始まり、多い日は2千羽以上の渡りが確認される愛鳥家たちに人気のスポット。

87 大宝寺
護摩堂

小浦海水浴場

玉之浦
八十八ヶ所

86 玉之浦
観音堂

85 西方寺

遣唐使に随行して唐へ留学した空海が帰朝途次に立ち寄り、この地で初めて真言密教を伝えた。真言宗総本山、紀州の高野山に対し、西の高野山と呼ばれる。無病息災や家内安全などを祈願する千日大祭の護摩たきがある。



五島の方言 ③【五島べん】

- つし・・・・・・・・・・天井の物置
- みじよか・・・・・・・・・・可愛い
- てっぺ・・・・・・・・・・不器用
- みん・・・・・・・・・・水
- てんげ・・・・・・・・・・手拭い
- みたんなか・・・・・・・・・・見っともない
- としばえ・・・・・・・・・・老人
- むげらしか・・・・・・・・・・むごたらしい
- どろくれもん・・・・・・・・・・怠け者
- むんかしか・・・・・・・・・・むずかしい
- とと・・・・・・・・・・父親
- めひぎゃ・・・・・・・・・・しゃもじ
- にやな・・・・・・・・・・姉
- めのは・・・・・・・・・・わかめ
- ぬすっと・・・・・・・・・・泥棒
- もうらしか・・・・・・・・・・むしむしする
- ぬかす・・・・・・・・・・言う（あらっばい言い方）
- もっだ・・・・・・・・・・もぐら
- ねずん・・・・・・・・・・ねずみ
- ゆなべ・・・・・・・・・・夜なべ
- ねまる・・・・・・・・・・腐敗する
- ゆがん・・・・・・・・・・ゆがむ
- のぼせもん・・・・・・・・・・お調子者
- よもくれ・・・・・・・・・・下らない男
- はえの風・・・・・・・・・・南風
- よっくされ・・・・・・・・・・欲深い人
- ばん・・・・・・・・・・兄または下男
- わたひ・・・・・・・・・・私
- びやら・・・・・・・・・・小枝
- わっみん・・・・・・・・・・湧き水
- ひらくっ・・・・・・・・まむし

観光地

個人的に好きな場所、あまり好きではない場所など、あると思います。

でも、観光のお客さまは、意外なところに関心してくださるもの。

全体を、まんべんなく網羅できるようにしておきましょう。

五島 観光名所 全体マップ

不測の事態や、天候などが原因で、予定していた観光地にご案内できない場合があります。
また、時間が余ったときなども、関連した近場のポイントを覚えておくことと応用がきき、あわてずスマートにご案内することができます。
このように臨機応変に対応できることも、お客さまへの心遣いといえます。





奈留島

24 ユーミンの歌碑

26 千畳敷

25 前島のトンボロ

- 1 常灯鼻
- 2 福江城
- 3 五島邸と心字が池
- 4 武家屋敷通り
- 5 明星院
- 6 鬼岳火山
- 7 鬼岳天文台
- 8 鏡瀬溶岩海岸
- 9 五島椿園
- 10 六角井戸
- 11 明人堂
- 12 檜ノ浦アコウ
- 13 勘次ヶ城跡
- 14 富江溶岩トンネル
- 15 只狩山展望所
- 16 大宝寺
- 17 大瀬崎断崖
- 18 湊ノ元カトリック墓碑群
- 19 空海記念碑「辞本涯」
- 20 ふぜん河
- 21 高浜海水浴場
- 22 白石のともづな石
- 23 魚津ヶ崎公園
- 24 ユーミンの歌碑
- 25 前島のトンボロ
- 26 千畳敷
- 27 赤島
- 28 黄島
- 29 嵯峨島

(福江地区) 常灯鼻 (じょうとうばな)



第30代五島^{もりあきら}盛成が福江城（石田城）を築くにあたり、城の北東から吹き寄せる大波を防ぎ、築城工事を容易にするため築かせたものといわれています。防波堤としての役割のほか、灯台としての役目も持っていました。

1846（弘化3）年に完成し、さらに丸木からの導流堤（防波堤）が2年後に完成、これによって港は一新され、多くの船が安全に停泊できるようになりました。福江城の築城にあたった石工は、近江（滋賀県）大津の集団であるとされ、常灯鼻も同じ石工によって造られたと考えられます。石工技術の発達した江戸末期の造りだけあって、築造から160年以上たった今でも、激しい波や風に耐え、出入りの船舶を見守り続け、今もその美しい姿を水面に映しています。1983（昭和58）年に市指定文化財（史跡）となっています。

(福江地区) 福江城 (石田城) 跡



1万2,530石五島藩主の居城で、第30代盛成の時、黒船の来航に備えて造られました。これは江戸幕府最後に築かれた我が国で最も新しい城だといわれ、1849（嘉永2）年8月から15年の歳月と約2万両の工費を使って、1863（文久3）年6月に完成しました。城郭は東西160間（291メートル）、周囲は1,212メートル※1あり、城壁の三方が海に面していた海城として有名です。現在は、本丸跡に

五島高校、二の丸跡に五島観光歴史資料館、文化会館、図書館が建ち、福江の文化ゾーンになっています。1966（昭和41）年、県指定史跡となりました。

(福江地区) 五島邸と心字が池 (しんじがいけ)

五島家第30代盛成の設計で、1858(安政5)年から2年かけて福江城(石田城)内に造営された隠殿(隠居所)。庭園は、京都の僧、全正に命じて造らせました。鹿苑寺(金閣寺)の丸池を模倣して造られたという林泉式庭園と呼ばれる回遊式の庭園は美しく情緒があります。周囲の庭石と築山はすべて鬼岳の溶岩を用いており、園内の庭石と築山の突端は亀の頭に似せているのが特徴です。植栽としては、多くの南方系植物を配している点に特色があります。「心」の文字をかたどった池は、心字が池と呼ばれています。

平成3年11月、国の名勝として指定を受けました。城郭内の庭園として、全国的にも保存例が少なく貴重です。



(福江地区) 武家屋敷通り

第22代五島^{もりとし}盛利は、五島藩における中央集権体制を目指し、1634(寛永11)年、各地に散在していた豪族や五島藩士170余家を福江に移り住ませました。このとき造られた武家屋敷通りが今なお、福江各所に石垣として残っています。福江の中心部に上級家臣の屋敷が造られ(本町商店街通り)、周辺部の中・下級家臣屋敷、さらに商人町、職人町などが出来ました。福江で最も保存状態のよい武家屋敷通りは、中級以下の30~40石家臣が住んでいた所です。福江の武家屋敷通りの約400メートルの石垣は、全国でも類例を見ない造りとなっています。溶岩塊の石垣を積み上げ、その上に「こぼれ石」といわれる丸石を積み重ね、両端は脇石(蒲鉾型の石)で止められています。門は、ほとんどが薬医門と呼ばれる門構えで、堂々たる造りとなっています。



※1
福江城周囲調査
H21.5
全体周囲1.212m
本丸周囲386m

(福江地区) **明星院** (みょうじょういん) 日本遺産 (2015年認定) ※ 1



明星院は五島家代々の祈願寺で、寺伝によると空海(弘法大師)が806(大同1)年中国(唐)からの帰りにこの寺に立寄り、唐で修めた密教が国家や民衆のために役立つか祈願された。翌朝、東の空に輝く明けの明星を瑞兆(良い

ことがある前触れ)と思い、明星庵(後に宝珠山吉祥寺明星院と改名)と名付けたと、伝えられています。

現在の本堂は、1778(安永7)年28代^{もりゆき}盛運が、火災で焼失した本堂を再建したもので、檜の芯柱20本を使用しており、五島最古の木造建築物となっています。安置された本尊は虚空蔵菩薩。格子天井には、五島藩絵師で狩野派の大坪玄能の筆による121枚の花鳥画が極彩色に描かれています。その他、鎌倉、室町時代の仏像仏具も多く、中には国の重要有形文化財に指定された仏像(秘仏)もあります。

(福江地区) **鬼岳火山群**



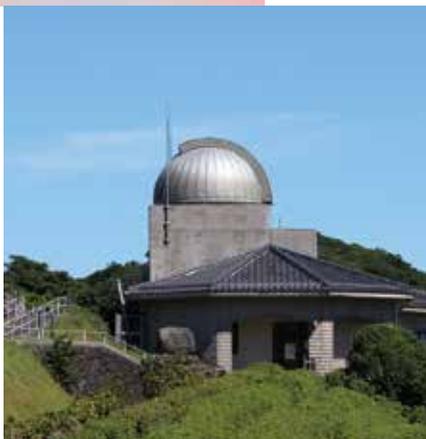
五島市福江の南部には溶岩台地が広がり、その中央部に鬼岳(標高315m)や火ノ岳(標高314m)等が円みを帯びた頂きをもってそびえています。いずれも玄武岩質の噴出物(スコリア)によ

り形成されたスコリア丘であり、火山体の底面積に比べて大きな火口をもつのが特徴です。鬼岳はこれらの中で最大のスコリア丘で底径1.5kmに及び、北側に大きく開口した火口があります。鬼岳火山群を含む福江火山群は、火山噴火予知連絡会による活火山の分類ではランクC(活動度指数が低い火山)に分類されています。また鬼岳は、全山芝生に覆われ、古くから市民のハイキングや凧揚げなど、行楽地として親しまれています。

(福江地区) 鬼岳天文台

空気が澄みきった五島の立地条件を活かし、訪れる人に美しい宇宙を見せたいとオープンした鬼岳天文台。九州でも有数の口径60センチメートルのニュートン式反射望遠鏡で、迫力ある夜の星像が楽しめます。月面の不思議な光景や星雲、星団の輝きなど普段見られない繊細な宇宙を臨場感たっぷりに見ることができます。

天文観測室、研修室兼展示室、事務室等あり、研修室では100インチスクリーンで星座のビデオ放映もおこなっています。また、フローライトレンズ使用の10センチメートル小型望遠鏡も用意しているので、家族やグループの観望の場となっています。水平線が見える天文台で、ひとときの宇宙との出会いを楽しんでみませんか。



※1
文化財の名称「明星院本堂」。五島最古の木造建築。空海が唐から帰朝する途中でこの寺に籠り、明星院と名付けたといわれています。

(福江地区) 鐙瀬溶岩海岸 (あぶんぜ)

鬼岳火山から流出した溶岩の上に海が進出して、変化に富んだ海岸線をつくっています。ここは対馬暖流の影響により年中温暖な無霜地帯で、いたるところに南方系植物が繁茂し、情熱的な花木が咲きみだれ、美しい景観を呈しています。



観光地

「日本遺産 (Japan Heritage)」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

(福江地区) 五島椿園



五島椿園は、福江島のシンボルの一つである鬼岳の中腹に位置しています。面積は6ヘクタールで、島に自生するヤブツバキのほか、園芸品種など約270種、3,000本の椿を植栽しています。園内には縦横に散策路が設け

られ、ほぼ中央の芝生広場では、芝スキーも楽しめます。また、その周辺にはシステム遊具や休憩用の東屋、トイレなどが設置され、世界の椿の愛好者に親しまれている幻の椿「玉之浦」のゾーンも設けています。

鬼岳には展望台、産品センター、鬼岳天文台のほか、桜公園や鬼岳樹木園などがあり、鬼岳周辺だけで観る・食べる・体験する観光が楽しめます。

また、隣接する鬼岳樹木園と一体的に国際椿協会による国際優秀椿園に認定申請を提出しており、2010（平成22）年3月に認定されました。

(福江地区) 六角井 (戸) (ろっかくいど)

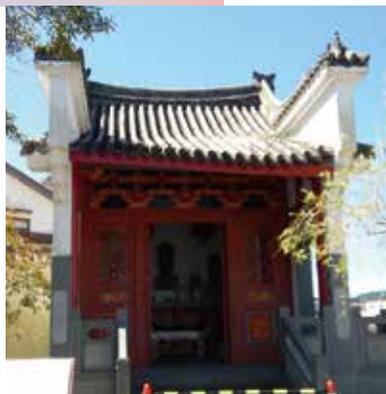


1540（天文9）年、当時、明国の王直は、通商を求めて福江（当時は深江）に来航しました。江川城築城後間もないので窮迫した財政を再建するため、宇久盛定は、現在の唐人町の高台に居住地を与えました。

その際、王直ら中国人が飲料用水、船舶用水として造ったのがこの六角井（戸）といわれています。平戸市にある六角井（戸）より早く造られたこの井戸は、井戸枠を六角形に板石で囲み、井戸の中も水面下まで六角形井壁が板石で造られているため、ちょうど六角柱を地中に埋めたような形になっています。1954（昭和29）年に県指定文化財となっています。

(福江地区) **明人堂** (みんじんどう)

1540(天文9)年、当時、東シナ海を舞台に倭寇として活動していた明国の王直は、通商を求め福江に来航しました。財政的に苦しんでいた宇久盛定は喜んで通商を許し、城下(江川城)の高台に居住地を与えました。その一画に王直ら中国人が、航海の安全を祈るために廟堂を建立し、その跡が現在の明人堂であるといわれています。王直はその後、平戸に居を構え、明国が海禁(鎖国)政策をとってからも、倭寇と呼ばれ、体制にとられない海洋人として自由に往来していました。



現在の新しい明人堂は、官民一体となった建設資金の募金活動により、島内外の浄財を集め建設されたものであり、建設にあたっては石材等は中国から取り寄せ、中国風の瓦葺きや壁画は中国の工人の手によりなされたものです。

(福江地区) **榎ノ浦のアコウ** (かしのうら)

福江の北、榎の浦にアコウの大木があります。アコウは、アコギまたはアコノキなどといわれるクワ科の半常緑高木です。イチジクのような小果を結び、わが国では沖縄県、九州、四国、本州の暖地に分布します。県内では本土の沿岸暖地や五島・平戸・壱岐・鷹島等の島々に大木を見ることが出来ます。亜熱帯植物で奇観を呈することが多いですが、榎の浦のアコウは県内最大の巨樹で、九州でも第一級の部類に入ります。大きさは根回り15メートル、高さが11メートルとなっています。本幹、支幹が入り乱れ、大きいものだけで約100本。そのうち気根が土中に入って、支柱根となったものが40本を超えています。枝は、近所の家を覆いつくさんばかりに四方に伸びています。昭和27年、県の天然記念物に指定されています。



(富江地区) **勘次ヶ城跡** (かんじがしろあと) (山崎の石塁)



福江島の南端、富江町南部の溶岩台地の海岸に砦状の「勘次ヶ城」遺構があります。迷路のような石積みが巡らされ、その延長は80メートルに及んでいます。1850（嘉永3）年

前後に大工の勘次が河童と共に築いたとの伝説がありますが、人頭大の火山礫で造られた複雑な間取りやタコ壺状の石塁の規模を見れば、個人の方で構築できるものではないことが分かります。この一帯は、松浦党の豪族田尾氏の所領であり、田尾氏の砦だったとも考えられますが、周辺から古銭、明焼き陶器、人骨が出土したことから中世に活発だった倭寇の築城説が有力です。

(富江地区) **富江溶岩トンネル** (井坑) いあな



溶岩が冷え出し始め表面と下部が固結した頃、内部の固まらないドロドロの高温部分が表面を破って流れ去った後に出来たトンネルで、「岩の穴」がイワンアナと訛り、更にイアナに転訛したと思われます。

空洞の壁面にはマグマの流出した波状の跡や小豆大の黒色の磁鉄鉱粒が見られます。富江溶岩台地には、いくつかのトンネルが確認されていますが、最大のものが県の文化財に指定されています。

入口は幅6.5メートル高さ3.5メートルのアーチ状になっていて、延長約400メートル地点で水没しています。洞穴内の水は淡水に近い海水で、海の干満の水位と時間差があることから、奥は小さな穴によって海とつながっていると考えられています。1957（昭和32）年、県の天然記念物に指定されました。 ※現在崩落により危険の為立ち入り禁止

(富江地区) **只狩山展望所** (ただかりやま)

富江半島のほぼ中央部に位置する只狩山山頂（標高84メートル）にあり、三層の展望台に立つと眼下には富江の中心街が広がり、富江湾に浮かぶ多郎島などの小さな島々や五島富士と呼ばれる鬼岳を遠望でき、澄み渡る風景に心も洗われる気分になります。三方には海が広がり、玉之浦町大宝や、それに連なる変化に富んだ海岸線を展望することができます。山頂付近は町民や観光客の憩いの場として整備され、桜の名所としても知られ、ソメイヨシノ300本が美しく咲く頃には、毎年多くの花見客で賑わいます。

また、展望台付近には新田次郎さんの富江町を舞台にした海洋小説「珊瑚」の記念碑も立っています。



(玉之浦地区) **大宝寺** (だいほうじ) 日本遺産 (2022年認定) ※1

大宝寺は約1300年前の701（大宝1）年に創建されました。もともとは三論宗の道融という人が開基しましたが、その後、806（大同1）年、空海（弘法大師）が唐から帰国の際に大宝に立ち寄り、大宝寺において真言宗最初の道場として布教活動をしたことから、三論宗を真言宗に改宗しました。その後『西の高野山』と言われるようになり、ぼけ封じ観音や奥の院の小高い丘の上には「へそ神様」と呼ばれる五重の石塔があり、子供が生まれると島の人達は健やかな成長を願って、へその緒を紙に包み、石塔の下の方にある穴に納めたといいます。今では、その穴は蓋がされています。

また、最澄が寄進した仏像、左甚五郎作の彫刻、江戸宝暦（1750～1764）時の十二支、600年以上経た鐘（県文化財）など貴重なものが多くあります。



※1
文化財の名称「大宝寺」。701（大宝1）年に創建。唐から帰国した空海がここで真言密教を説いたという伝承があることから、「西の高野山」ともいわれています。

(玉之浦地区) **大瀬崎断崖** (灯台) (おおせざき) ※ 1



『九州本土で最後に夕日が沈むところ』として、九州本土の最西端に位置し、東シナ海の荒海に面しています。堆積岩の地層があざやかな縞模様をなし、照葉樹林と海の青とのハーモニーが何とも言えない美しさです。この海蝕崖の上に、1879 (明治12) 年、白亜の灯台が建てられました。1971 (昭和46) 年に改築され、当時、

全国で最大の光度200万カンデラの光を發し、その光は約50キロ沖合まで届きました。現在は、14万カンデラです。日没から夜明けまで10秒おきに点灯するビーコン式灯台に改められ、近海を航行する船の道しるべとなっています。展望台からは左右の大海蝕崖と東シナ海の大海の眺めが雄大です。また灯台までは、展望所から遊歩道沿いに行くことができます。

(三井楽地区) **淵ノ元カトリック墓碑群** (ふちのもと)



三井楽教会の西方、福江島の北西にある東シナ海に面した草原のその一角には、十字架をかたどった墓標やマリア像が海辺に立ち並ぶ、比較的大規模な地元カトリック信者の墓地があります。静かに佇む十字の墓標やマリア像に異国情緒が漂います。それが夕陽に照らされ、海原は黄金に輝き、

墓碑群が影絵のようになる時、厳かな光景に包まれ、独特の雰囲気がいよいよ強く迫ってきます。時代に激しく翻弄されたキリシタンの、この島の歴史を感じ、夕陽と重なり勇敢で優しい人々の心に包まれたような気がします。

(三井楽地区) **空海記念碑「辞本涯」** (じほんがい)
日本遺産※2 (2015年認定)

空海（弘法大師）の弟子が著した「遍照發揮性靈集」により、遣唐使ゆかりの柏崎と、第16次遣唐使船で804（延暦23）年で唐に渡った空海との深いかかわりを知った旧福江市在住の三井楽町人会の有志の方々が、このことを広く世人に紹介し、空海の遺徳を顕彰するため、正面に嵯峨島・右側に姫島を望む、なだらかな丘陵に建立したものです。碑は、台座1.2メートルの上に高さ2メートル、共に自然石で姫島や柏崎灯台を背にして建てられており、「辞本涯」（日本のさいはての地を去るの意）の碑の文字は高野山清涼院住職の書によるものです。この草原に立ち、東シナ海の大海原を眺めるとき、「日本のさいはての地よ、さようなら」の感慨に浸り、命をかけて唐に渡った人々の勇気と偉業が偲ばれ、ただただ頭の下がる思いがするのみです。



※1
大瀬 崎 断崖
大瀬 崎 灯台

※2
文化財の名称「三井楽（みみらくのしま）」
三井楽町の海岸域及び海域

(三井楽地区) **ふぜん河**

遣唐使船が五島に立ち寄るようになったのは、南路を通るようになった第14次の遣唐使船からだと言われていますが、それ以前の文献にも三井楽の古地名である「美弥楽久」の字が見え、難破したときの漂泊地、風待ちとしての寄港地として利用されていたものと思われる。柏崎は、遣唐使船最後の寄港地であり、ここから東シナ海の大海原に乗り出す人々にとっては、祖国最後の地でした。三井楽町柏崎にあるふぜん河は、遣唐使船の乗組員の飲料水、船舶用水として利用された大井戸であると言われています。渚から少し高い位置にあり、岩盤から湧き出す水は、渇水期でも尽きることがなく、良質の飲料水として大いに喜ばれていたと言い伝えられています。丸い自然石をたんねんに積み重ねた直径3メートルの井戸には、今でも常に水をたたえています。



(三井楽地区)

高浜海水浴場



日本一美しいと言われる砂浜は、全国的にも有名で、近くの展望台から眺める光景は一段と素晴らしい。輝くほどの白銀色の砂浜を取り囲むように連なる山々の深い緑、波打ち際から水色、青色、沖合

は藍色となって東シナ海に広がるさまは、まばゆいくらい美しい眺めです。高浜は、日本の渚百選、快水浴場百選に選ばれ、浜の背後には、ハマユウやサキシマフヨウの自生群がある。渚本来の浄化力を保っており、渚の生態系がそのまま美しい景観を生み出しています。同海水浴場は、日本の西端に位置し、日本で最後に沈む夕日を眺めることができます。沖に浮かぶ嵯峨島や水平線を真っ赤に染めながら落ちていく大きな夕日は、雄大であり、自然の描き出す芸術に、ただ感嘆するばかりです。シーズン中は海の家設備も完備されています。また、高浜海水浴場の背後を走る国道384号線は日本の道百選に選定されており、快適なドライブコースにもなっています。

(岐宿地区)

白石のともづな石 日本遺産 (2015年認定) ※1



ともづな石がある岐宿町白石は、遣唐使船最後の寄泊地といわれています。ここで船を修理し、食糧を補給し、風を待って一気に大陸を目指しました。その間、遣唐使船はこの石にとも綱を結わえたといえます。遣唐使たちの命を懸けた偉業を讃え、地元では小さな祠を建てて、豊漁、海上安全の神としてこの石を祀っています。

遣唐使は630年頃から約260年間、18回ほどにわたって唐に学者、僧、留学生を派遣した国家的大事業です。

後期になって筑紫の大津〜平戸〜五島〜長江（揚子江）という南路のコースをとり、この地に寄泊しました。※2

(岐宿地区) 魚津ヶ崎公園 (ぎょうがさき)

遣唐使船日本最後の寄泊の地として川原の浦が「肥前風土記」に記載されていますが魚津ヶ崎は、その入口の西海国立公園内に位置し、風光明媚な公園として知られています。周辺にはキャンプ場があり海岸では磯釣りもでき、大自然を満喫できるレジャー公園です。魚津ヶ崎公園から望む夕日は、空と海と島々を赤く染めながら、果てしなく広がる西海の海原へと落ちていきます。

自然のドラマがくりひろげる神秘的なその光景は、訪れる者に感動を与え、しばし、ロマンチックな旅情にひたることができます。公園内のバンガローにはエアコンやシャワー、トイレもあり、家族はもちろんグループ、小さい子供や、お年寄りもキャンプを楽しめます。



※1
文化財の名称「ともづな石」
岐宿町の白石湾は、古来遣唐使船最後に停泊した港であり、遣唐使船を繋いだという「ともづな石」が安置・祀られています。

(奈留地区) ユーミンの歌碑

1974（昭和49）年、奈留高校は五島高校の分校で独自の校歌がなかったため、人気歌手のユーミンに、女生徒が「校歌を作ってほしい」とラジオの深夜番組に投書したところ、♪風がやんだら 沖まで舟を出そう♪で始まる「瞳を閉じて」という歌をプレゼントしてくれました。遠くへ行った友を思いやる島の人の

心を歌い込んだ詩で、今ではこれを記念する素敵な歌碑が、奈留高校校門を入ると左側の場所に建てられています。その後、正式な校歌にはなりませんでしたが、卒業式には毎年必ずこの愛唱歌が歌われます。歌碑の文字はもちろんユーミンの直筆で、碑は、高さ2.5メートル、幅2メートルの御影石製です。



※2
ともづな石のある場所より坂を少し登ると遣唐使船などが航海のおり、汲んでいった神讓川という湧水場があります。

(奈留地区) 前島のトンボロ 砂嘴 (さし)



奈留島港の南約2キロにある前島と末津島とを結ぶ带状の浜で、規模は幅約10メートル、長さ約400メートルです。

奈留瀬戸の激しい潮の流れで小石が堆積してできたもので、干満によって青白くのびる美しい景観へ変わります。

砂洲が離れ島と陸地を結びつけたもので、大潮のときの干潮時には玉石でできた浜が干上がり、前島とその先の末津島(無人島)が陸続きになります。景観としても美しく、また、学術的に見ても大変価値のあるものです。

(奈留地区) 千畳敷



しゅうと

舅ヶ島海水浴場から小島へと連なる広く平坦な岩礁で、畳が1000枚は敷けそうな位広いことから名付けられました。小島の山の緑とそこへ続く千畳敷と浸食された奇岩、紺碧の海とのコントラストが絶景を造り出しています。

千畳敷を含む舅ヶ島・奈木崎海岸地域は県内14か所の自然環境保全地域のうち、特に学術上重要な地形や自然豊かな植物形態が残る特別地区に指定されています。



【カツオ漁の基地として栄えた島】

江戸中期に泉州佐野浦（現・大阪府泉佐野市）から漁民が移住したといわれる赤島。明治から大正期にカツオ漁の基地として栄え、島にはカツオ節の工場があったそうです。漁業の島として1955（昭和30）年代には500人近い人々が住み活気がありましたが、以降、人口は激減しました。

※1
2011年3月発行の記事を引用。2022年12月末現在の人口は8人。

【7人の人口が15人に】

「今日は22匹捕れたよ」と、笑顔でイセエビをかかげて満足げな男性。実は大阪から島に移住し、暮らし始めたばかりの渡辺満さんだ。

2010（平成22）年4月時点7人だった島の人口は、最初に福岡から1ターン移住した夫婦をきっかけに、同年12月（取材時）には15人に増え、もうすぐ17人になる予定だという。人口が減り続ける小島にあって、赤島は自治会の「無人島にはしたくない」という思いで1ターン希望者を受け入れ、人口が増えている島として注目されています。（「旅する長崎学」※1より）





【捕鯨基地として栄える】

福江島の南東17kmの海上に浮かぶ小島。島には水源がなく雨水を利用していました。1984（昭和59）年に国の計画によって、世界初の太陽光発電利用海水淡水化施設が設置されました。現在は電力の供給を受けて稼働し、住民の生活用水として利用されています。江戸時代から捕鯨が盛んで、昭和初期まで捕鯨基地として栄えました。近海には好漁場があり、イシダイ釣りの一級ポイントとして釣客も多く訪れます。

【必見の溶岩洞窟（トンネル）】

黄島には長い溶岩洞窟がある。火山噴火の際に溶岩が海岸に流れ込んでできたものらしい。洞窟内の見学は暗くて危険なため、島で民宿を営む山下幸子さんに案内してもらった。

洞窟内は幅が広くなったり狭くなったり、突然坂になったりもする。真っ暗な中をロウソクの火を頼りに約130mばかり進む。奥には140年前の観音像が祀られていた。闇の空間に浮かび上がる赤い祭壇の存在は感動的ですらあった。（「旅する長崎学」より）



【嵯峨島といえば…】

三井楽の貝津港から渡海船で嵯峨島へ向かいます。港から乗り込む際、島の小中学校の給食などの物資も積み込まれます。

古くから平家の落人伝説の島といわれている嵯峨島。島の名前は京都「嵯峨」に由来するとも伝わります。毎年お盆にはオーモンデーという念仏踊りが演じられ、色鮮やかな衣装を身にまとった踊手が霊を供養しています。

【島民の約3分の1がカトリック信者】

次に向かったのは丘の上にある嵯峨島教会。白い壁が清潔で、静かな空間が広がっています。1797（寛政9）年に迫害を逃れ中央西部・大村藩からキリシタンが移住し、現在島民の約3分の1が信者だという。大正初期まで信者の家でミサが行われていましたが、1918（大正7）年に教会堂が完成しました。

【千畳敷の見事な曲線に感嘆！】

遊歩道を歩いて千畳敷へ向かう。島の男性が親切にも道順を教えてくださいました。

嵯峨島は男岳と女岳の二つの火山が爆発隆起し、融合してできたためずらしい島です。南西部に海の浸食によってできた奇岩や洞窟などが多く海に突き出た火山海食崖や千畳敷の岩場は学術的にも有名です。お目当ての千畳敷は幾層にも重なった溶岩が波や風に浸食されてできた地形で、波がつくった曲線模様が何とも美しいです。付近は釣りのスポットとしても知られています。

千畳敷の展望所の脇にある溶岩の上に、手を合わせて鎮座する石造が置かれています。小さくてかわいらしい仏像でした。（「旅する長崎学」より）



嵯峨島教会堂

※1
黄島港には、先人たちが築いた石積み
の堤防があります。
後世に伝えていきたい
景観です。



千畳敷

五島の方言 ④【五島べんを文章にしたもの】

- ・お客様たちはどちらからお出ですか。
(おきゃくさんな、どっかきたっかな)
- ・また、遠いところからよくいらしゃました。
(そがん、どうかとこかっよーきたもんじゃん)
- ・どうぞ、あがってゆっくりしてください。
(あがってゆっつらーとしちょんなはれ)
- ・私がこれからごちそうを作って食べてもらいますからまっ
ていて下さい。
(わたひの、いまかっ、ごっつばつくってくわすって、
まちょんなはれな)
- ・私の料理は大変美味しいですよ。
(わたひ、ごっつはうんまかぞな)
- ・ほほが落ちるぐらい。
(ほっぺたんおちゃくぞな)
- ・あなたはとっても可愛いですね。
(あがー、ぎーまにみじよかね)
- ・私の嫁にしたいぐらいです。
(おっがよめごにしたかばってんね)
- ・また来てください。
(また、こんかな) (また、きてくだはれな)

自然

五島は自然の宝庫です。ここに書かれていない、植物や、地形もたくさん。

女性のお客さまは、特に花や植物の関心が高いはずですから、少なくとも名前だけは覚えておくと、ガイドとしての品格が上がります。

鬼岳の植物

3年に1度の野焼きにより、サイクリング道から山頂にかけてススキ、チガヤ、メガルカヤなどの草地になっています。草地と日照を好む希少植物も多く見られます。第1ピークに登る斜面にはワラビが多い。山頂稜線付近にイヌザンショウが見られます。葉を揉んでもサンショウほど強く香りません。クロイゲ（南方系の小低木）もあり。平成25年頃からオトコモギが増えてきました。

【春】

- ツチグリ ……………黄色い花、展望台周辺から山頂までの遊歩道ぞいに多い。葉の裏や茎が白っぽい。長崎県絶滅危惧IB類、環境省絶滅危惧IB類。
- スマレ……………葉は矢じりを細長くしたような形 駐車場周辺
- タチツボスマレ……………葉はハート型。茎がある。駐車場周辺
- ヒナギキョウ……………インフォメーションセンター付近に多いが、目立たないのでよく踏まれる。
- オカオグルマ……………黄色い花。4～6月頃開花。銚瀬に下る道路際にある。長崎県準絶滅危惧種

【夏】

- ネジバナ……………ラン科 花の色は白～赤紫で小花がらせん状につく。展望台周辺に多い。
- ロクオンソウ……………別名ヒゴビャクゼン、花は緑色だが黒紫のタイプも見られる。長崎県準絶滅危惧種、環境省絶滅危惧II類
- フナバラソウ……………数は少ない。ロクオンソウとともに実の形が独特で名前の由来にもなっている。長崎県準絶滅危惧種、環境省絶滅危惧II類
- ノヒメユリ……………花は下向きに咲く。花の大きさは日本最小で、黄色のタイプもある。長崎県準絶滅危惧種、環境省絶滅危惧IB類
- ヒメイズイ……………頂上付近の稜線に少数ある。ナルコユリに似ているが茎を触ると角張って、茎はあまりたわんでいない。

【秋】

- リンドウ……………秋の鬼岳を代表する花。長崎県準絶滅
危惧種
- ナンバンギセル……ススキなどの根に寄生する植物。葉は
ない。9月頃キセル型の花を咲かせる。
- サイヨウシャジン…鬼岳全山に見られる。サイヨウシャジ
ンの変種のツリガネニンジンもある。
- アキカラマツ……………地味だがよく名前を聞かれる植物。
- ノダケ……………背が高くなるので目立つ。茎は暗紫色で、
実はカレーのようなにおいがする。よ
く名前を聞かれる植物。
- シラヤマギク……………白いキク型の花。茎は暗色。
- コシオガマ……………半寄生植物。鐙瀬に下る道路際で見ら
れる。ピンク色の目立つ花。
- アキノタムラソウ…駐車場周辺、道路際。福江島では普通
に見られる。
- アキノキリンソウ…駐車場周辺、鐙瀬に下る道路際。福江
島では普通に見られる。
- ヤクシソウ……………駐車場周辺、鐙瀬に下る道路際。福江
島では普通に見られる。
- ヒヨドリバナ……………鐙瀬に下る道路際で見られる。姿、花
ともフジバカマに似ているが葉を揉ん
でも青臭いだけで香りはない。福江島
では普通に見られる。
- オトコエシ……………鐙瀬に下る道路際で見られる。花の付
き方はヒヨドリバナに似ている。

国立公園内での採集は慎みましょう。

ありのままの状態で！とっていいのは写真だけ！



リンドウ



サイヨウシャジン



ナンバンギセル

堂崎の植物

教会背面の山はタブ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、トベラなどの樹木に覆われています。



写真 1

写真 2

写真 3



写真 1

ツゲ

マサキ

トベラ

シャリンバイ

写真2



マサキ

トベラ

ハマジンチョウ

ヒメユズリハ

写真3



ソテツ (3本)

トベラ

ハマジンチョウ

ハマウド

ひとくち メモ

アカンサスについて

アカンサス模様は教会の柱や壁に彫刻されています。また、お札のモチーフにもなっています。

地中海から熱帯アジア・熱帯アフリカ原産なので、日本には大正時代に渡来しました。初夏に葉の中心から40cm弱の花穂を伸ばし、暗い白色やバラ色、紫がかった花を下から上へと咲かせます。



【ハマジンチョウ】

亜熱帯や暖地南部の海岸に生える常緑低木。花は斑点のある薄紫色で、株によって濃淡があります。福江島では11月～3月に開花、蜜を求めてメジロやヒヨドリが訪れます。実はコルク質で水に浮き、海流に乗って運ばれます。挿木でふやすことができ、潮がかぶらない土地でも育ちます。玉之浦湾の海岸に特に多く見られ、荒川のハマジンチョウは県の天然記念物に指定されています。



- 民俗資料館の前にアコウ（五島市の木）があるが、まだ若い木で気根がありません。
- 田ノ浦瀬戸に面した海岸近くにはハマオモト（五島市の花、ハマユウともいう）、ハマナデシコ、ハマボッス、ハマウドなどが見られます。
- 教会正面にある銅像の下にはマツヨイグサ（帰化植物、宵待ち草ともいう）がある。初夏～夏に黄色い花が咲きます。

ひとくち メモ

堂崎の地形

砂嘴（さし）

沿岸流により運ばれた漂砂が静水域で堆積して形成されるくちばしの地形のことです。



大瀬崎の植物

シマシャジン



開花時期 9月中旬～10月下旬
花の色 青、紫
分布 福江島・平戸・済州島（世界で3カ所）
植物のタイプ 多年草
※絶滅危惧1B類指定

燈瀬溶岩海岸の自然

鬼岳の噴火により約7キロの溶岩海岸になっています。（鬼岳溶岩、鬼岳火山 5±4万年前）ゴツゴツした黒い玄武岩が特徴です。

溶岩海岸から北にある鬼岳から流れ出た溶岩流の上に約1万年前に海が進出してできた「溶岩海岸」です。岩場は激しくごつごつしており、海岸のいたるところにはタイドプール（潮だまり）が点在し、種々の海浜生物が生息しています。タイドプールには対馬暖流による影響や地形的な特性から、カメノコキクメイシやノウサング、エダミドリイシなどサンゴの仲間やサンゴイソギンチャクなどが見られます。

カナリーヤシ（俗にフェニックスと呼ばれている）

カナリーヤシはヤシ科ナツメヤシ属のなかでは一番大きく成長し高さ10～15m、幹の直径は50～90cmに達します。

羽状葉は長さ5～7m、幼時は上を向いて伸びるが、成木になるにつれて、弓上に曲がります。

葉は150～200対の小葉をつけ、下部のものは長さ5～15cmのとげに変化しています。

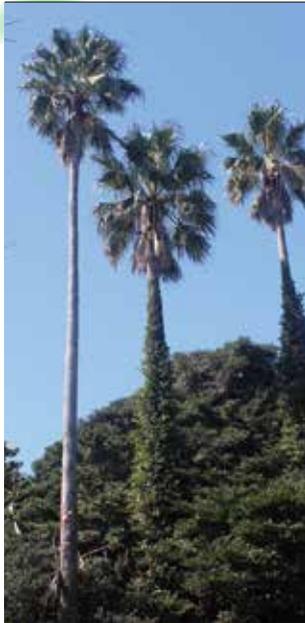
枯れた葉を切り取った後と見られる、パイナップルのような形になったところにはシダなど、いろいろな植物が着生しています。



※燈瀬のカナリーヤシは、11月頃になると、葉を切り取っている。



ワシントンヤシモドキ (別名オニジュロと呼ばれシュロの葉に似ている。)



ワシントンヤシと似ており、しばしば混同されています。ワシントンヤシは北アメリカ西南部原産で、幹が太く、直径50cm以上になり、葉の裂片の縁は顕著に糸状にさけます。ワシントンヤシモドキは、北アメリカ南部からメキシコにかけて分布し、幹が細く直径は30cmぐらいで、根元は少し膨らんでいます。最近では両種の雑種がよく栽培されるようになりましたので、その区別がはっきりしないものもあります。ワシントンヤシは太くなりますが、成長が遅いので、ワシントンヤシモドキのように高くは伸びません。並木として植えられているものを見ると、時々太くて丈が低いものが混じっていることがありますが、それがワシントンヤシです。

アメリカデイゴ (亜米利加梯梧)



南米原産で、初夏～秋、葉と同時に真っ赤な大きな花を長い総状花序そうじょうに付けるマメ科デイゴ属の落葉小高木です。葉より花の方が先に咲く種類が多いので、葉と同時に咲くのはアメリカデイゴの同定の一つとなります。花が終わると豆果という長い鞘(さや)ができ、熟します。葉は丸みを帯びています。南国らしい木でハワイや、鹿児島市では街路樹として植えられます。
※別名カイコウズ(海紅豆)と呼ばれる

※福江中学校、五島振興局にもあります。

サンゴシトウ (珊瑚刺桐)



交配種(エリツリナ・ヘルバケア×アメリカデイゴ)サンゴシトウはアメリカデイゴの子供のようなものです。



※右がアメリカデイゴ。
左がサンゴシトウ

ハマヒサカキ（浜姫榊） 地方名（五島）：イソシバ



11月から12月にかけて黒い実をつけます。小鳥はこの実を目当てに集まってきます。

鐘瀬では、実を求めて飛んでくるメジロやウグイスの姿を目にすることができます。

海岸近くに多く、同属のヒサカキより葉がまるく、分厚く、光沢があり、乾燥などに強い。海岸林に一般的な小高木で、風当たりの強い海岸林で密な林冠を構成するものの一つである。名前も海岸のヒサカキの意味である。別名（地方名）イソシバ。潮風や乾燥に強いことから街路樹として用いられることがある。ヒサカキのような宗教的な利用はなされないため、知名度はヒサカキより低い。

※サカキに非ず→ヒサカキ



トベラ（扉）



トベラは本州の岩手県以南から台湾までの海岸に分布する常緑低木で樹高数mになる。海岸近くに生育するが、乾燥に強いことから庭園や公園、道路の緑化帯などに広く植栽されており、内陸の森林中にも稚樹がみられることもある。新葉は美しいが、さび病に冒されやすく、古い葉は黒くすすけてしまいがちである。潮風の当たらぬ場所では、葉の病気が発生しやすいのかもしれない。葉は互生であるが、枝の先端に集まるので輪生のように見える。基部が次第に細くなる狭卵形で、鋸歯はない。雌雄異株であり、4月から6月にかけて白色から淡黄色の花を咲かせる。果実は秋に熟し、3つに割れて中から赤い粘液に包まれた種子がのぞく。和名の由来は、樹木全体に悪臭があり、とびらに刺して魔よけにしたことからという。



ココスヤシ



ブラジルヤシ×ヤタイヤシといわれる。この3種は識別が非常に難しい。

ナンヨウスギ (南洋杉)



ナンヨウスギ科の常緑高木。生長が早く、樹皮はざらざらして横に裂け、枝は輪生する。葉は針形。オーストラリアの原産。

武家屋敷ふるさと館にもあります。

ビロウ (蒲葵)



ワシントンヤシにも似るが、葉先が細かく裂けて垂れ下がるのが特徴である。東アジアの亜熱帯(中国南部、台湾、南西諸島、九州と四国南部)の海岸付近に自生し、北限は福岡県宗像市の沖ノ島。

地衣類 (ちいるい)



菌類(主に子囊菌類)と藻類(シアノバクテリアあるいは緑藻)からなる共生生物である。地衣類の構造は菌糸からできている。しばしば外見が似るコケ植物(蘚苔類)と混同されるが、地衣類は菌類であって植物ではない。
※ 昭和天皇は、皇居内の生物学御研究所で、公務の合間に研究を続けられました。専門は変形菌類、海産動物のヒドロ虫類の分類学的研究です。
(昭和44年ご来島の際には、鑑瀬の地衣類にも興味を持たれたと思います。)

マサキ (柁または正木)



海岸近くの林などに自生する。秋から冬にかけてオレンジ色の実をつける。
6月に花が咲き、1月頃に実が熟します。

※堂崎天主堂駐車場近くでも見かけます。

海辺の植物（高浜などの砂地）

ハマエンドウ



開花時期 4月
花の色 紫
分布 北海道から沖縄。海外では、北半球の冷帯から亜熱帯にかけて広く分布する。
生育地 海岸の砂浜や、海岸付近の道ばた、川岸、畔や畑
植物のタイプ 多年草
大きさ・高さ 20～70センチ

ハマボッサ（浜払子）



漢字では「浜払子」と綴り、花の咲く様子が仏具の払子に似ていることに由来。
開花時期 5月～6月
花の色 白
分布 北海道から沖縄に分布、海外では、アジアの東部から南部、太平洋諸島などにも分布
生育地 海岸の岩場や礫地、砂浜
植物のタイプ 越年草
大きさ・高さ 10～40センチ

ハマヒルガオ（浜昼顔）



開花時期 5月中旬～8月中旬
花の色 ピンク
分布 北海道から沖縄。海外でも、世界中に広く分布している。
生育地 海岸の砂地
植物のタイプ 多年草
大きさ・高さ 10～20センチ
※俳句の季語は夏

ハマオモト（浜木綿）



開花時期 7～9月 **花の色** 白
分布 本州の千葉県南部から沖縄に分布。海外では、中国、マレーシア、インドなどにも分布する。
生育地 海岸の砂地 **植物のタイプ** 多年草 **大きさ・高さ** 50～100センチ
※五島市の花。花言葉：あきらめない気持ち

ハマナデシコ [浜撫子]



開花時期 6月中旬から9月
花の色 赤、紫
分布 本州から沖縄。海外では、中国にも分布する。
生育地 海岸の岩上や砂浜
植物のタイプ 多年草
大きさ・高さ 20～50センチ
※花言葉 陽気な恋、純愛、無邪気、大胆

ハマゴウ (蔓荊)



開花時期 7月～10月
花の色 青、紫
分布 本州の東北地方南部から九州。海外では、朝鮮半島、中国、東南アジアなどにも分布
生育地 海岸の砂地
植物のタイプ 樹木
大きさ・高さ 50～100センチ

五島の木

ナタオレノキ (天然記念物)



ナタオレノキは雌株が少ない樹木ですが、この樹は雌株で珍しく、樹勢旺盛です。10月中旬になると、純白の小花を咲かせ、モクセイのように芳香を放ち、街行く人の心を和ませてくれます。
※ナタで切ろうとしても、歯がくいこまずナタの柄が折れてしまうといわれるほど硬い木なので。



エノキ / 榎 (三井楽)



三井楽のエノキは、長崎県で一番大きい。
木の胴回りは6m25cm

スダジイ / すだ椎 (七ツ岳)



旧七岳神社の巨木コースに巨大スダジイあり。

バクチノキ (雨通宿)



バクチノキは、別名を「裸木 (ハダカギ)」とも言われるように、樹皮がはげ落ちて木肌を露出する。それを博打に負け丸裸になるのになど、たとえ、「博打の木」と名付けられた。
※福江島ではこのバクチノキが一番大きいのでは。



クスノキ (五島氏庭園・心字が池)



庭園には樹齢800年以上の大巨木があります。四方八方に枝を伸ばし、根っこでしっかりと支えている姿は、「心字が池」の番人です。葉をちぎると、独特の樟脳の香りを持つことから「臭し(くすし)木」が名前の由来です。
※周囲長6.2m (地表高さ1.2m測定。2021年調査)

ツバキ（聖母の大椿）三井楽



キリスト教信者が多いこの地区に昔からある大椿は、この地区のキリシタンの歴史を見守ってきたことから「聖母の大椿」と呼ばれるようになった。

ショウベンノキ（箕岳ふもとの、大通寺境内にあるショウベンノキ）



琉球列島や台湾に産する常緑の小高木で、初夏に緑白色の小花を咲かせます。変わった植物名ですが、この木の枝を伐ると多量の樹液が出るので、この名が付けられたのでしょう。九州の海岸に稀に生えるもので、崎山町箕岳のショウベンノキは樹高4m程で、群落をなしているので珍しいです。

ひとくち メモ

オオキンケイギクは「特定外来生物」

人の手でこれ以上拡げないようにするため、環境省では、平成18年2月、「特定外来生物」に指定しました。きれいな花だからといって、ご自宅のお庭や花壇に植えては、絶対にいけません!! 5月～7月頃にかけて、鮮やかな黄色の花をつけます。

日本の生態系に重大な影響をおよぼすおそれがある植物として、外来生物法による「特定外来生物」に指定され、栽培、運搬、販売、野外に放つことなどが禁止されています。

北アメリカ原産

特徴：多年生草本

高さ30～70cm程度。

葉は、茎の下の方に着き、両面に粗い毛がある。花期は5月～7月頃。直径5～7cmの燈黄色の頭状花をつけます。

別名特効花※1とも呼ばれています。



椿の島

玉之浦つばき



五島にはたくさんの椿が咲き、濃紅色の白い覆輪のツバキ、国際ツバキ名鑑の巻頭を飾る名花として知られている「玉之浦」。原木は、福江島玉之浦荒川温泉の父ヶ岳（五島列島最高峰461m）の急斜面に自生していた。1947（昭和22）年、炭

焼きで生計を立てていた岐宿町二本楠の故有川作五郎氏が山中で偶然見つけたものです。1973（昭和48）年2月長崎市での全国ツバキ展に、当時の町長藤田友一氏が出展し、この花が江戸時代の椿花図にあったことから「幻のツバキ」として脚光を浴びました。現在園芸展などで見る玉之浦ツバキはこの原木よりさし木で増殖された子孫です。

このツバキが外国での交配育種により八重になった「タマアメリカーナ」や「タマピーコック」などが逆輸入されています。



古城白

桜蘭

昭和錦

輝国の春

五島のヤブツバキは同じ花がたくさん咲く島というばかりではなく、多様な変化に富むヤブツバキの宝庫とも言われています。

久賀島の亀河原、長浜の椿の原生林をはじめ各地に椿の群生している場所があります。

■五島の教会とヤブツバキ

カトリック教会のステンドグラスを含め内部装飾には椿をモチーフに使ったものが多い。

堂崎教会はヤブツバキ模様のステンドグラス。

※1

■ 椿の実と椿油の生産

椿の木は、農業器具の柄、椿油の原料、潮風に強い防風林などと島の生活にしっかりと根付き守られてきました。五島市には約440万本（令和5年2月）の椿の木があり、510万本（ゴトウ）に増やそうと植樹をしています。花が咲き実（「かたし」と呼ぶ）がつき、中にある種から椿油をつくります。

・ 椿油はオレイン酸が86%～含まれて油の変質や凝固を防ぐ（オリーブ油64%、大豆23.5%）

・ 椿による島おこし開発商品（椿油：6キロの実から1.8リットルとれる）

・ 椿石鹸・椿シャンプー・椿あめ・五島うどん（椿油を入れているので腰が強いと評判）

・ 料理の油として

古くからてんぷら油として重宝されています。

五島の自然 天然記念物

国指定のへゴ自生北限地帯・男女群島の他に、県・市・町の指定する天然記念物

■ 福江エリア

へゴ自生北限地帯（国）増田町二里木場



増田町二里木場の指定地は、1921（大正10）年に県書記の内山芳郎が発見した。内山によると、海岸から2km、標高100m付近を中心に、溪流のほとりでヤブツバキ・シキミなどが茂る中に、高さ5mばかりのへゴの成木と幼木合わせて20本ばかりがあり、附近にアオノクマタケランやヤマコンニャクも見られたという。ところが、現在は成木にまで成長しているものではなく、幼木が10本程ある程度です。附近にはヒロハノコギリシダ・リュウビンタイ・ケホシダなどがあります。（県のHPより）

男女群島（国）・浜町 1255 番地外

福江島南西約70キロにあり、全島、国の天然記念物に指定されています。植物相は、南方系植物を含みながら貧弱な島嶼型の特徴をもっています。動物相においては、ダンジョヒバカリの日本唯一の生息地では、オオミズナギドリ、アカヒゲ（国の天然記念物）の繁殖地で、渡り鳥の中継地となっています。

明治以来珊瑚（さんご）がひきあげられていたが近年資源が少ない。豊富な漁場としても有名です。

檜之浦のアコウ（県）・平蔵



アコウはクワ科の常緑高木で中国から台湾を経て日本の南部暖地に分布します。五島市檜ノ浦のアコウは県最大で九州でも第一級の部類に入り、全景は非常な奇観です。垂下する気根は大きいものだけで100本、そのうち地中に入って支柱根となっているものも40本を超えます。根回りは15mを越え、樹高10m以上、四方へ30mも枝を張っています。

他にも玉之浦町大山祇神社、大宝寺、富江町富江小校庭などのアコウが大きいものとして知られています。

鬼岳火山涙（県）・上大津



鬼岳の火口周辺に、玄武岩質の粘性の低いマグマが、噴火の際に飛散って固結した水滴状のもので、球状のもの、引き延ばされたもの、両端がふくらんだものなど種々の形があります。火山涙はハワイの火山噴出物に多く「ペレーの涙」ともいわれています。大きさは小豆大4mm以下のものをいいます。

黄島熔岩トンネル（県）・黄島



鬼岳南方約10キロの黄島にある模式的熔岩トンネルで、内部の壁面には、流痕鍾乳石が見られ、奥行は131.2メートルです。トンネル奥には観音像が祀られ、像を清めるかのように地下水がこんこんと流れ出ています。

福江の大ツバキ（県）・野々切（大窄）



戦前、戦後と日本一の産油量を記録している五島の椿は、島々各地に育っています。大窄の椿は、1600年頃に防風と採種のために植えたものが、現在2本残り、愛媛県の椿神社内大椿と共に日本でも最も古い椿と言われています。中央の一本の幹周りは2.35メートル、高さ14メートルです。

福江椎木の漣痕（市）平蔵町椎木

五島市の北東部、平蔵町小田河原の東方約400mの岬には、非常によく成層した五島層群が露出しています。この岬の背後の山を、地元では椎木山とよんでいます。地層はN30°E方向の走向をもち、南東に40~50°急傾斜しています。岩質は、主として板状砂岩で構成されていますが、黒色泥岩をはさんで互層をなしています。漣痕をもつ広い地層面が露出し、幅10mで、傾斜にそった長さが約20mに及んでいます。漣痕の波頭は1mにつき12~13本で、波高は2~3cmである。波頭はおおよそ東西性がありますが、必ずしも直線的でなく、部分的に湾曲するため、遠望すると全体的に「ちりめん模様」を見せています。断面では対称的な波形をもつため、浅い水底で、前後に動揺する波によってつくられたものでしょう。漣痕をもつ砂岩は硬く、保存が非常に良好なため、この種の地質現象の資料として価値は頗る高くなっています。（県HPより）

久賀の椿原生林（県）・久賀島



久賀島東側1haが天然記念物に指定されたヤブツバキの自生林で、表土が浅く、砂礫が多い地質のため大木は少なく、数百本が密生して樹海を形成しています。又、田ノ浦の亀河原などにも多く、以前、全国産出の6割が長崎県で、その内の6割が久賀島の椿油だったこともあると言われます。

クワズイモ（市）・下大津（八幡神社）



クワズイモは南方系のサトイモ科の植物で毒性があり、葉はサトイモの葉によく似ています。このクワズイモは、四国・九州の南部・琉球から亜熱帯・熱帯に分布し、湿った木陰に生える多年草です。五島市には、指定地の八幡神社社叢以外にも、男女群島・黄島等に見られ、南方より根茎が潮流により運ばれたり、実が鳥類により運ばれたりして繁殖したものと考えられます。夏季には仏炎包の黄白色の花をつけます。北限植物であるため学術的に貴重なものです。

タヌキアヤメ（市）・高田（翁頭池一带）



九州南部・五島・天草・琉球、および台湾・中国・インド・マレーシア・オーストラリアの亜熱帯から熱帯に分布する南方系の湿原植物です。冬には枯れますが、夏の終わりの開花時には小さな黄色い花を咲かせ、高さ1m位になります。つぼみに褐色の毛を密生する姿を狸にたとえ、葉がアヤメに似ることからこの名が付けられたのでしょうか。福江島では、指定地の翁頭池以外に三井楽町・岐宿町・玉之浦町などに自生し、北限植物であることから貴重です。

■ 富江エリア

富江溶岩トンネル「井抗」(県)・富江町岳



溶岩が冷え出し始め表面と下部が固結した頃、内部の固まらないドロドロの高温の部分が表面を破って流れ去った後にできたトンネルで「岩の穴」がイワンアナと訛り、更にイアナと転訛したと思われます。

富江溶岩台地にはいくつかのトンネルが確認されていますが、文化財としては最大のもので指定され、入口は幅6.5メートル高さ3.5メートルのアーチ状になっています。ゆるやかに屈曲しながら南に向けて徐々に下がりますが、延

長400メートル地点で天井まで満水状態となり先が不明となっています。洞穴内の水は淡水に近い海水で、海の干満の水位と時間差があることから奥は小さな穴によって海とつながっていると考えられています。

洞穴内の湖部分には学術的にも珍しい盲目魚「ドウクツミミズハゼ」が棲息しており、これは体長6センチ内外で、鱗はなく、何世紀も光り入らない洞穴内で棲息していたため、全体が白色ですき透った魚です。眼は全く退化し皮下に埋没してケシ粒くらいの痕跡があります。生きたまま観察できるケースは世界的にも珍しいとされています。(令和5年2月現在、崩落の危険があるため立ち入り禁止)

■ 玉之浦エリア

へゴ自生北限地帯(国)・玉之浦



玉之浦町矢ノ口は荒川湾奥に位置し、へゴ自生地は南向きの溪流のほとりにあります。この指定地は、1906(明治39)年、五島列島で初めて田代善太郎によって発見されたところからです。田代によると、海岸から300mほど入った標高100m以上のところで、幅

6m、延長200mないし300mにわたってヤブニッケイ・ヤブツバキ・ネズミモチなどの茂る中に大小76本を数えたそうです。現在、環境の変化で、その存在があやぶまれています。(県HPより)

玉之浦のアコウ（県）・玉之浦町玉之浦



小浦のアコウは主幹の囲りが10,3m、この主幹の地上から3mのところから巨大な支柱根が地上におりていて、その差しわたしは6mもあり、主幹と支柱根の間を神社へ通じる参道が通っています。支柱根はこの他にも大きなものが4、5本で複雑怪奇な形態を示しています。

丹奈のヘゴ・リュウビンタイの混交群落（県）



指定地は丹奈の集落からさらに2kmほど登った標高100mほどのところ。指定当時の記録によるとここは溪流をはさんでモチノキ・ヤブツバキ・ヤブニッケイ・ハウロクイチゴ・クロイゲ・ナチシダ・オオイワヒトデなどの茂るなかに多量のリュウビンタイと大小40株のヘゴが見られた。近年、小数のヘゴはよく成長していますが、全体としては少なくなっています。

荒川のハマジンチョウ（県）・玉之浦荒川



インドシナ半島から台湾、沖縄を経て長崎県にまで北上分布する南方系植物。波静かな内湾や入江の奥の満潮線のあたりに生育するという特色を有し、根元は満潮になれば海水に浸かり、干潮時には露出しています。花は晩秋から翌年にかけて開き、果実はコルク質で中に種子を宿し波に運ばれて分布を広げます。

五島列島は我が国で最もハマジンチョウが密度高く生育する所で福江島の玉之浦湾に多く、その一つが荒川です。

七岳のリュウビンタイ群落（県）・玉之浦荒川



地下に大きな塊状の根茎があり、これから長さ1m余りの大きな2回羽状複葉を出すシダです。南方系で五島列島が北限。

頓泊のカラタチ群落（県）・玉之浦頓泊



ミカン科の落葉低木で、枝が変化した鋭い丈夫なとげがあります。もともと中国原産と考えられていましたが、対馬や五島にまれに自生することが判りました。

島山島のへゴ自生地（県）・玉之浦浅切

このへゴ自生地は管理も行き届いて環境もよい。高さ7m、幹の回り70cmのものが数本あって、茎の先に長さ2mもある羽状複葉の美しい葉を四方にひろげて葉冠をつくり、木性シダ特有の形態を示している。五島ではへゴを特にオニへゴと呼びます。一般に、茎の発達しない幼木では一見してほかのシダと区別しにくいこともありますが、茎が発達してくるとへゴであることがわかってきています。

白鳥神社の社叢（県）・玉之浦



長崎県下では男女群島について温暖な所で、その風土をよく代表する常緑樹が数多く生育している社叢です。

大瀬崎粗粒玄武岩（市）・玉之浦

粗粒玄武岩とは半深成岩の1種で、成分上では玄武岩やはんれい岩と同じです。普通、岩脈や岩床となっていて大瀬崎灯台へ登る途中の展望所の付近に、五島層群を貫く岩脈になっているのがみられます。この岩脈は約850万年前の第3紀中新世後期に、地下深いところでマグマがこの地層を貫入して岩脈をつくったが、その後激しい造山運動によって隆起し、長い年月の間に地層が削りとられて、現在地表に露出したものです。同様の岩脈が、この付近や大瀬崎灯台へ続く断崖に幾つか見られるが、いずれも垂直よりやや傾いた角度で平行して分布していて、「平行岩脈」を形作っています。

■ 三井楽エリア

漣痕（県）さざなみの化石 三井楽町濱ノ畔



五島列島に分布する五島層群の板状をなす砂岩に多く見られ、三井楽町白良ヶ浜、五島市奥浦椎ノ木山の漣痕（れんこん）が著名です。

堆積岩の形成時に波紋や雨のあとをとどめることがあります。この波紋（さざなみ）の小さいものを漣痕と言います。

嵯峨島火山海蝕崖（県）三井楽町嵯峨島



三井楽半島西方海上4キロに浮かぶ周囲12kmの小さな島で、ひょうたんを縦に割って伏せたような形をしています。北の男岳（151m）と南の女岳（130m）の両火山が結合してできた島です。特に北西岸は、東シナ海の荒波で浸食され、芸術品を見るような奇岩と昔爆発した火口の内部構造が海上からよく観察されます。噴石丘の形成過程を知る上で、貴重な地学的資料で、成層、岩頸、岩脈などが鮮やかな色をなし、世界的に珍奇であり、見る人を感嘆させています。

■ 岐宿エリア

岐宿町タヌキアヤメ群落（県）・岐宿町松山桑木場



指定地・寺脇の溜池は福江島のほぼ中央、二本楠の北方約3kmの所にあり面積2.6ha余のかなり大きな水田灌漑用の池です。

タヌキアヤメは邦産タヌキアヤメ科中・一科一属一種のもので、その形態、生態ともに特異な植物と称することができます。その分布は豪州・マレー・印度・南支那・

台湾より琉球に北上し、さらに薩摩の阿久根に達し、福江島におよぶ。寺脇はその代表的産地でかつ分布の北限です。

巖立神社社叢（県）・岐宿町



巖立神社は岐宿町の北部に位置し、境内はほぼ長円形で南北280m、東西は140mあり、社叢は主に社殿の西・北・東に広がっている。群落としてはシイノキ、タブノキ、ハマセンダン、ヤマザクラ、ナタオレノキ、エノキなどで、これに、モクタチバナ、サンゴツユ、ネズミモチ、トベラ、シロタモ、ヤブニッケイ、バクチノキ、ハマビワ、カクレミノ、ハマヒサカキ、ホルトノキ、ヤブツバキ、クロバイ、ヒメユズリハ、イヌマキ、タラノキ、リュウキュウ

ウバライチゴ、ホウクロイチゴ、キジュラン、ムベなどが混生しています。特にナタオレノキは五十余本もある群落を形成してあり、全国的にもこの規模の群落は珍しい。

■ 奈留エリア

奈留島権現山樹叢（国）・奈留町浦

奈留町浦郷の海岸にある海拔52mの小山にあります。樹高は10～15m、高木の幹径は50cmを越すスダジイ・イスノキを主木とし、ヤブツバキ・シロダモ・ホルトノキ・タブノキ・モッコク・フウトウカズラなどがあり、林下にはオオカグマ・ノシラン・アオノクマタケラン・ヤブランなど常緑草本が密生しています。

船廻社社叢（県）・奈留町船廻

船廻は奈留町の門戸である浦港の北約3kmのところにある集落で、ここに八幡をまつる船廻八幡神社がある。この神社は海岸の平地にあって、さほど広くはないが、ホルトノキ・ナタオレノキ・イスノキ・バリバリノキ・ナギ・モクタチバナ・アコウ・カカツガユ・サツマサンキライなどの暖地性の樹木や草本が茂っている。現在ナタオレノキの幹の回り1mの樹木も多数みられ、そのなかには3mを越す巨樹が2本もある。（県のHPより）

奈留島皺の浦ハマジンチョウ群生（県）・奈留町大串



（なるしましわのうらのはまじんちょうぐんらく）

奈留町大串郷字池塚には、直径100メートル、短径50メートルの海跡湖があり、その湖岸に長さ80メートルにわたってハマジンチョウが群落をなしています。それは3つの特色を有しています。一つは、かつて五島列島の入り江各所に存在していたであろう大規模な群落をなしていること、二は群生地が海岸ではなく海跡湖の岸にあること、三はその環境の高い自然度です。いずれの点からも我が国第一級のハマジンチョウの群落です。

ひとくち メモ

文化財とは

文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産です。このため国は、文化財保護法に基づ

き重要なものを国宝、重要文化財、史跡、名勝、天然記念物等として指定、選定、登録し、現状変更や輸出などについて一定の制限を課す一方、保存修理や防災施設の設置、史跡等の公有化等に対し補助を行うことにより、文化財の保存を図っています。また、文化財の公開施設の整備に対し補助を行ったり、展覧会などによる文化財の鑑賞機会の拡大を図ったりするなど文化財の活用のための措置も講じています。

さらに、我が国を代表する文化遺産の中から顕著な普遍的価値を有するものをユネスコに推薦し、世界文化遺産への登録を推進しています。（文化庁HPより）

ハチクマ 9月中旬～10月はじめ



ハチクマは、両翼を広げた長さ（翼開長）が130cmになる大型のタカ。夏に本州などで繁殖し、秋になると越冬のため東南アジア方面に向かいます。ハチの幼虫やサナギを食べる習性があること、クマタカに似ていることが「ハチクマ」の名前の由来といわれています。また、体色の変化が多く白っぽいものや、黒っぽいもの、茶色など、同じ種類に見えないタカです。日本に飛来したほとんどのハチクマが五島列島を経て東シナ海を2,3日かけて超え大陸に渡りますが、玉之浦町大瀬山で見られる渡りの規模は日本最大で、毎年シーズン中に7,000羽から20,000羽あまりが記録されており、全国からバードウォッチャーが訪れる観察地になっています。日の出前から始まるたくさんのハチクマの飛び立ちは見ものです。

セグロカモメ 10月～3月



全長：61cm 翼開長：151cm
海岸、河口に飛来するが、比較的西日本に多い。

成鳥の背がうすい灰色である点はカモメに似ているが、大きさ、足の色が違います。

三井楽町の高崎海岸などには、セグロカモメやウミネコなどが冬を越すために飛来します。セグロカモメは繁殖地のシベリアなどから秋に来て、3月ごろに戻っていく。高崎海岸には数百羽が飛び交っています。

※高崎海岸では最盛期には、カモメ類が1000羽を超えます。天候によっては2000羽を超えることもあります。種類は、セグロカモメ、ウミネコ、オオセグロカモメ、他。年齢によって羽毛の色や模様が違うため、たくさんの種類がいるように見えます。

散策・トレッキング

近年、関心の高まっている散策やトレッキング。ガイドの腕の見せどころです。天気の悪い時など、応用が利く街歩き。気持ちのよい気候の時に喜ばれる、自然の中を歩く散策など、代表的なコースをご紹介します。

スタート

1 福江みなと公園

海洋都市・五島市発展の情報受信拠点。海の玄関口に 2006（平成 8）年 8 月完成した広場

2 常灯鼻

福江城（石田城）の築城工事を波浪から守るとともに、出入する船の安全のため、1846（弘化 3）年に完成。

3 伊能忠敬天測の地

測量のため福江に到着した翌日（1813（文化 10）年 7 月 1 日）の夜、伊能忠敬が天測をした地。当時の測量水準の高さが分かる。

4 商店街・100 石以上の武士が住んでいた場所であった。

1962（昭和 37）年 9 月 26 日の福江大火後、街並の様相を一変し、近代化をはかりつつ前進する。旧武家屋敷跡地に広がる市中心街。

5 武家屋敷通り

1634（寛永 11）年各地の豪族 170 余家を移させた武家屋敷の中で、唯一残る 400m の中級武家屋敷跡の通り。「こぼれ石」をのせた石垣塀といかめしい門構えの薬医門は全国的に類をみません。

6 山本二三美術館

『天空の城ラピュタ』『火垂るの墓』などで美術監督を務めた山本二三氏の作品を展示する美術館。建物は 1863（文久 3）年に建てられた武家屋敷「松園邸」を改修。

7 武家屋敷通り ふるさと館

史跡跡「福江武家屋敷跡」に 1995（平成 7）年に建設。城下町の写真等の展示や（林泉式）庭園がある。館内には、喫茶コーナーや凧の絵付けなどの体験ができる。

8 福江城（石田城）跡

1863（文久 3）年、幕府の命により「国防」を目的に 15 年の歳月をかけて完成しました。江戸時代最後の城郭です。また、築城当時は三方を海に囲まれた海城です。

9 城山神社

五島家始祖（家盛）ほかを祭神とする城山神社は、1919（大正 8）年福江城（石田城）三の丸跡の現在地に移されました。神社一帯には、昭和天皇歌碑、文化会館、観光歴史資料館、図書館があり、福江の文化ゾーンになっています。文化会館裏から、本丸跡、内濠、五島邸壁も見えます。

10 外堀公園

海上からの船の出入りした水門、船だまりが見えます。1950（昭和 25）年代後半から進められた浜の埋立地に建設されました。

11 福江みなと公園

ゴール

スタート

1 福江みなと公園

2 常灯鼻

●航行の安全を守り続けて

3 明人堂

●一帯は王直のお屋敷
16世紀、東アジアの海を股にかけていた明の貿易商人・王直の屋敷があったこの一帯は、今も唐人町と呼ばれています。当時、航海安全祈願のため建てられた廟堂を再現したお堂は、中国から取り寄せた石材を、中国の工人が建てた本格的なものです。

4 六角井（戸）

●中国式の六角形
日本の井戸は四角形や丸が普通です。板石を組み合わせた大きな六角形です。

5 宗念寺とイボ取り地蔵

●著名人のお墓がいっぱい
浄土宗のお寺（26番札所）。墓地には伊能忠敬の副隊長坂部貞兵衛の墓があります。明星院の天井画を描いた大坪玄能の墓。念じるイボがとれるという「イボ取り地蔵」にはいつも唐辛子が供えられています。

6 福江教会堂

●復興のシンボルとして被災者を勇気づけた
長年の夢であった新しい教会が建設完成後、わずか5ヵ月後に「福江大火」が起り、市街地の大部分が焼失しました。長崎県内では戦後最大の大火災となりましたが、福江教会は奇跡的に焼失を免れました。焼け跡にそびえ建つ教会は、復興のシンボルでもありました。

7 武家屋敷通り

●こぼれ石と門構え

8 武家屋敷通り ふるさと館

●武士の気分でひと休み

9 山本二三美術館

●五島の雄大な自然を見て育った山本二三氏の絵と、五島の歴史を感じられる美術館

10 福江城跡と五島高校

●史跡の中で学ぶ

11 城山神社

●五島家始祖家盛ほかを祭神とする

12 福江みなと公園

ゴール

九州100名山 セツ岳登山 (標高432m) 7つ岩峰からなる山

所要時間：3.5時間

距離：5km

地形：アップダウン 強

荒川登山口バス停

駐車場・七岳神社



九州100名山にも指定され登山家にもとても人気があるセツ岳は、標高432mの三角点峰でなる山です。山一帯は七岳神社の神の領域に当たり、神秘的な雰囲気があります。原生林もあり人が4~5人登れる巨木にも出会えます。巨木コース、健脚コースのルートもあります。五島列島最高峰の父ヶ



岳461mと同山脈のため二つの山を縦走もできますが、かなり厳しいコースです。名前の通り7つの岩峰からなる山のためサメの歯のように荒々しく、岩場を登ったり降りたり連続が続きますが各場所での展望が楽しめます。原生林と展望と岩場と登り下りが魅力です。さほど高い山ではありませんが、シダが多く標識が隠れていることがあるため、道中に迷うこともあるので注意してください。

福江島シンボルの山 鬼岳火口一周ウォーク (標高315m)

所要時間：1.5時間

距離：4.5km 6,500歩

地形：アップダウン中

鬼岳駐車場



五つの白状火山群(鬼岳、火ノ岳、城岳、箕岳、白岳)の主峰で、島民から愛されている福江島のシンボリック存在の鬼岳は、約18,000年前に噴火した火山で、玄武岩質の噴出物(スコリア※1)により形成されたスコリア丘です。その火口を一周歩くことで偉大な自然のパワーを感じることができます。樹木がありませんので、景観がよく様々な角度から、町や海をみることができます。

カタツムリロード

おんたけやま

御嶽山 (標高178m)・白鳥神社

しらとりじんじゃ

所要時間：2.5時間

距離：6km 9,400歩

地形：アップダウン強

歴史深い白鳥神社に参拝し、見晴らしがすばらしい御嶽山へ登頂するコースです。白鳥神社は、最澄が遣唐使として出発する折に、航海の安全を祈願したと言われています。御嶽山は、無動力船時代に鰯（ぶり）の大群が湾内に侵入したことを知らせる魚影の見張り台でした。そのため360度の絶景は、登った者にだけ与えられるご褒美かもしれません。カタツムリのような道のりです。



※1

マグマが噴火の時に放出され冷えて固まった石で、マグマの中の水分が気化、あるいはガスが抜けてできた小さな穴が多くあります。黒っぽいものはスコリア、白っぽいものは軽石とよびます。

日本の灯台50選ロード 大瀬埼灯台

所要時間：1.5時間

距離：往復3km 4,600歩

地形：アップダウン強

大瀬埼駐車場

断崖にそびえたつ白亜の灯台は、日本屈指の光達距離を誇っています。また、『日本の灯台50選』の一つでもあり、五島列島を代表する観光の名所でもあります。1879（明治12）年12月15日に初めて点灯し現在のものは1971（昭和46）年に改築したものです。初代の一部は東京晴海の「船の科学館」に展示されて、羽田空港に降り立つ時に上空から見ることができます。最近では、映画「悪人」の中で最も象徴的なシーンが撮影された場所としても注目されています。そのトレッキングコースは、灯台に近づくにつれて海の風が強くなり、だんだんと見晴らしもよくなりますが、帰りは登りが続きますので、多少厳しい道のりになります。



炭焼きさんロード 大瀬山

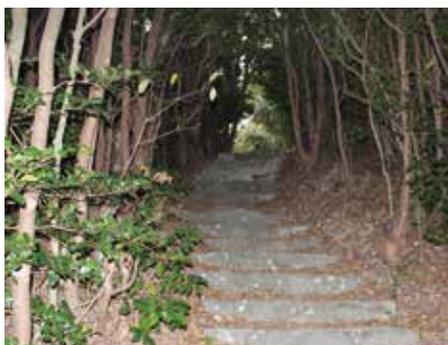
所要時間：2時間

距離：4.5km 7,000歩

地形：アップダウン強

大瀬崎展望台

西方断崖に大瀬崎灯台がある大瀬山のトレッキングコースです。遊歩道から山道を40分ほど歩きます。途中には炭焼き跡が2ヶ所ほど残っています。山頂展望台には長崎の平和祈念像を製作した北村西望氏の作品「祈りの女神」像があります。ここからの展望は、像の前方に大瀬崎灯台、そして果てしなく広がる東シナ海が視界に入ります。9月中旬から10月上旬にハチクマの渡りも見ることができ、多い日は2千羽以上の渡りが確認される愛鳥家たちに人気のスポットです。



民話・民謡・祭 イベント

地域に根付いたお祭りなどは、タイミングが合いその時期ならば、情報として、お伝えすることができます。

民話、民謡など披露できれば、ガイドしていて話題に困ったときなどの、ちょっとしたスパイスになります。

【ヨシトカッポ（福江）】

城山の近くに貧しい一人の女が住んでいた。

女は住吉の百姓の子で16歳の春に岩川の親類の許に嫁いだ。夫は百姓片手間に魚釣りを業としていたが、3つになる芳子の後に勝雄という男の子を生んだ頃、夫は病死してしまった。

その後、桃の節句も5月節句の幟も他家の祝いであったが、せめて菖蒲でも刈ってそれを売り、子供のために小さな幟でも買ってやろうと考えた。2人の子供を連れて石田城の家老松尾様のお濠のあたりに行って見ると、濠端には菖蒲が所狭しとよく生い茂っており、女は2人の子を濠端に置いて菖蒲刈りに余念がなかった。

やがて抱えきれないほどの菖蒲を抱いて、子供のいたところに行った時は夕闇があたりをこめて、菖蒲も分からぬ程にとっぷり暮れていた。ふと見ると2人の子供はどこへ消えたか、呼べども呼べども返答はなく、その姿さえ発見されなかった。女は失神するほどなげき悲しんだが、その時すでに正気を失ったと見え「芳よ勝坊よ」と呼ぶ声が答えのない闇に、また、お城の森にこだまするのであった。そのうち女は遂に濠の中に飛び込んでしまった。

この悲劇が起こってから3日目の夜、松尾の濠に近いお城の森の中から、一羽の怪鳥が夜な夜な血をはくように「芳よ勝坊よ」と鳴く声を、いつしか人々は「ヨシトッカッポ」と言い伝えるのであった。

【弘法大師の手拭い】

むかし弘法大師が諸国巡行の時に、民家に宿を借ろうとあちこち頼んでみたがどこへいっても貸してもらえなかった。

その時ある老夫婦が「あばら家ですが良かったらどうぞ」ところよく宿を貸した。

その晩、老夫婦は自分たちには子供がなく、このように老人になって2人で寂しく暮らしていますと話した。

すると大師は「そうですか」というと何か考えるようにしていたが、次に手拭いを持ちながら「では正月2日の朝、井戸水を汲んで顔を洗ったらこの手拭いで拭きなさい」と申された。

当日言われた通りにしたところ、たちまち18才の若者になったと言うことです。

【福江小唄】

- (一) よせる白波 ほのぼの明けりゃ
島はほんのり薄化粧
港福江は情けをそえて
赤い椿の花が咲く さて
ほんに それぞれ 花が咲く
- (二) もゆる思いは大谷わたり
心字を書く池の鯉
石田城なら 緑の松を
映す外濠 あでな海 さて
ほんにそれぞれ あでな海

【椿音頭】

- (一) ハー日本一の五島の椿
赤い椿の 赤い椿の 花が咲く
※ほんによかよか椿島よいよい
ほんによかよか椿島
- (二) ハー送りましょうか椿の油
可愛あの子の 可愛あの子の 黒髪に
※ほんによかよか椿島よいよい
ほんによかよか椿島

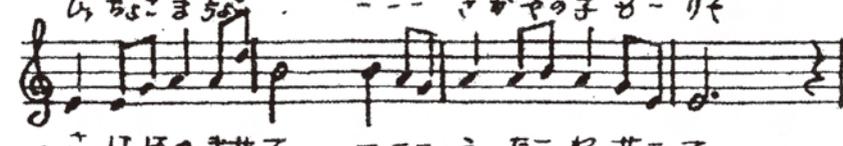
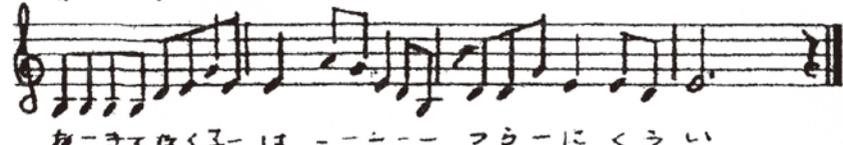
【岐宿の子守歌】

- (一) ねんねしなはれ 寝る子はみじよか
おきて泣く子は つらにくい
おきて泣く子は つらにくい
- (二) あらよ辛さよね 他人のめしは
骨はなけれど のどに立つ
骨はなけれど のどに立つ
- (三) いやよいやばよ 子のもりゃいやよ
子かりやせがられ おやかりゃいわれ
世間の人かりゃ なおいわれ

五島の民謡

岐宿の子守唄

梶山清 編曲



五島市歌

燦々と

作詞 川口早苗
補作詞・作曲 さだまさし

3

さん さんとあさひ あ びて
けん どう しのなごりと わに
まん て んのほしの こ とく

3x

きぼうのしまよ こ じょうのあとをしのぶ
ぶんかのさとよ はま ゆうのはなさいて
かがやくみらい めぐり ーゆくきせつに

れきしのさとよ みどり ゆたかに うみ
かおるつばきよ たびび といやし えが
えいちを ついで ふーる ーさと は やき

2x3x 3x

は きよ く た く ま し き ひ と は く
お も つ ど う ゆ た か な こ ど も は く
し き さ と よ ゆ め お お き ひ と は く

く む し ま よ ご と う よ ゆ め を は る か
く む し ま よ ご と う よ あ い の う た よ
く む し ま よ ご と う よ あ す の ゆ め よ

1, 2 3 3

みらいにひらけ けんけ ごと
みらいにひびけ まん
みらいへとど

よ あすのゆめよ みらいへとど け

4 rit

お祭りイベント

内容	日時	場所
貝津獅子こま舞（県指定文化財）	1月3日	三井楽町貝津
戸岐神社例祭（市指定文化財）	1月第2日曜日	戸岐
大宝の綱引き	1月中旬	玉之浦町大宝
ヘトマト（国指定文化財）	1月第3日曜日	下崎山町
大宝の女正月	1月下旬	玉之浦大宝
五島椿まつり	2月中旬～2月下旬	五島市内
三井楽万葉まつり	2月中旬	三井楽遣唐使ふるさと館
五島つばきマラソン	2月下旬	三井楽
五島綱引選手権 in 奈留	5月初旬	奈留町
富江半島ブルーライン in 健康ウォーク	5月初旬	富江町
こども自然公園大会	5月初旬	鬼岳園地
バラモンキングトライアスロン大会	6月中旬	五島市全域
ぎょうが崎漁火祭	7月中旬海の日	岐宿町
万葉の里ペーロン大会	7月中旬	三井楽漁港
各地区夏祭り	8月中旬	富江・三井楽・玉之浦・奈留
チャンココ	8月13・14・15日	富江全域、盆行事として行う
嵯峨島オーモンドー （国選択・県指定文化財）	8月14日	嵯峨島
カケ	8月14日	玉之浦町玉之浦
オネオンデ	8月13日・14・15日	富江町狩立・山下
五島列島夕やけマラソン	8月第4土曜日	旧福江市内
カヌーツーリング	8月下旬	玉之浦小浦海水浴場
巖立神社例大祭	9月中旬	岐宿町
白鳥神社例大祭	9月中旬	玉之浦町
富江みなとまつり	10月第1金・土・日曜日	福江市街地
富江神社例大祭	10月中旬	富江町
大宝寺千日祭	10月	玉之浦・大宝寺
椛島神社例大祭（市指定文化財）	10月第3土・日曜日	本窯町
奈留神社例大祭	10月中旬	奈留町
嵯峨島体感ウォーク	10月下旬	三井楽町
伊福貴恵比寿祭	10月	椛島
大宝郷の砂打ち（県指定文化財）	10月末	玉之浦町大宝
夕陽観賞会	12月31日	玉之浦町大瀬崎展望所

祭り

【下崎山町のヘトマト】（国指定重要無形民俗文化財） 祭り・伝統行事（福江エリア・崎山） 1月第3日曜日

昭和62年国の無形民俗文化財の指定を受けた五島市下崎山町に伝わる民俗行事です。13日に行われるが、宮相撲、羽根つき、玉蹴り、綱引きの順で、最後に大草履（3~4m、3~400kg）の奉納で終わります。この一連の行事をヘトマトと呼びますが、このように豊作、無病息災を祈願する



小正月の年占行事が混合している例は全国的に極めて珍しいといわれています。なお、羽根つきは、新婚の若奥さんが樽の上で行い、玉蹴りはフンドシに体中ヘグラ（カマドのスス）を塗った青年が白浜海岸でワラ玉を奪い合います。そして青年団と消防団による綱引き。最後は呼びものの大ぞうりの山の神（山城神社）への奉納。途中見物の娘さんをカづくで大ぞうりに放り上げて揺すって練り歩く。大ぞうりには普通のぞうりが数足添えてあり、牛にはかせるという。山城神社は牛の神様を祀っているといわれています。この行事の起源語源については不明です。

【戸岐神社例祭】 1月第2日曜日 祭り・伝統行事（福江エリア・戸岐）

市指定民俗資料

五島市戸岐町で1月15日に行われていましたが、近年はその近くの日曜日に開催されるようになってきました。子供らの健やかな成長と家内安全、そして大漁を祈願します。獅子舞を先頭に翁（おきな）と姫（おうな）、天狗と続き、巫女（みこ）姿の娘さんや、大型の御幣（ごへい）とみこしが路地を一巡します。翁と姫が祭りを盛り上げ、出迎えた地区の人達の肩を手にした棒と鈴で叩いて悪疫退散を祈願。祭りの名物の一つが御幣の入札で、非常に珍しいといわれています。誕生した男の子の縁起物となる御幣などの小道具を、正月4日の同神社初祈祷で落札して借り出すもので、一番札は金幣を持ちます。



【嵯峨島オーモンデー】 8月14日

祭り・伝統行事（三井楽エリア・嵯峨島） 念仏踊り

国選択無形民俗文化財、長崎県指定無形民族文化財



福江島西方の嵯峨島に伝わる踊りで福江のチャンココと同系の古い念仏踊りです。

構成はカネたたき四人、踊り手十〜十二名。半そでシャツに黄色の短い腰布を巻き、舞茸（まいぶき）の葉で編んだ蓑を腰につけ、金銀五色の切紙を飾ったカブトをかぶり、太鼓を前に抱き、バチを持って踊ります。

ヨーデル調の唱詞をとなえるのと、踊り手の力強い掛声と太鼓の音が和して素晴らしい。

「オーモンデー」はカネ叩きが唱える歌詞の一部です。

【チャンココ】 8月13・14・15日

祭り・伝統行事（福江エリア） 念仏踊り

五島のお盆の一大風物詩（大浜地区県指定無形民俗文化財）



福江に伝わる古い念仏踊りである。五島家初代領主の時、既に踊られていたという記録（文治3年・1187）がある。語源は鉦（かね）の音「チャン」と太鼓をたたく音「ココ」だと言われる。お盆の時、鼓と鉦に和して、掛（踊子）たちが円陣を作り、帷子を着てシットウの葉で作った腰蓑をつけ首に吊るした太鼓を叩きながら踊ります。初盆

を迎える家の前とお墓で供養をし、各地区の青年団が引き継いで行なっています。

【玉之浦カケ踊り】 8月14日
祭り・伝統行事（玉之浦エリア） 念仏踊り

町内の各戸をまわり、先祖の霊を慰める意味で十数名の者が踊る。



玉之浦町に伝わる踊りで、往古、士族の先祖祭の一行事だったと伝わっています。その装束は鎧、冑かぶとをつけた様相であり、（南洋の士族風

なところもあるが）踊りは武士が先陣に出で発たんとする様子ようで、太鼓には小刀をはさんで踊っています。

※
五島市に残る念仏踊り

- ・チャンココ
- ・オーモンデー
- ・カケ
- ・オネオンデ

ひとくち
メモ

念仏踊り

800年以上続く五島各地に伝わる盆供養の念仏踊りは、現在でも、青年団を中心に踊り継がれている。先祖を大事にする五島の良き風習のおかげかと思われま。地域によって、チャンココ、カケ、オネオンデ、オーモンデー等と呼称は異なるが、チャンココ、カケ、オネオンデは毎年領主の前で演じられたために演出が加えられていったのに比べ、オーモンデーは孤島で他に影響されることなく保存され原型に近いものではないかと思われま。基本の形は大体同じであるが、衣装、冠、太鼓、蓑等微妙に異なっています。チャンココの場合太鼓の皮は鹿皮だったというが牛皮になり、現在はブリキ又は薄板です。オーモンデーでは犬の皮を使用していました。カケでは玉之浦町で鯨がとれる頃は鯨の内蔵の皮を利用した事もありました。

【大宝の綱引き】 1月11日
祭り・伝統行事（玉之浦エリア・大宝）

男女に分かれて大綱を引き、豊漁・豊作を祈願 男性が勝つと豊作、女性が勝つと豊漁。



五島市で『大宝の綱引き』。子孫繁栄と豊作を祈願する伝統行事。9:00頃～全家庭から集めた稲藁で長さ60mもの大綱をつくり、17:30～男女に分かれて大綱を引

き、豊漁・豊作を祈願する。7回戦で行なわれ、男性が勝つと豊作、女性が勝つと豊漁と言われています。



【梶島神社例祭】 10月第3土曜日・日曜日
祭り・伝統行事（福江エリア・梶島）

見物される方も曳船を曳くことができる体験型の祭り



五島市梶島の本窯（もとがま）地区で行われ、みこしと曳き舟が登場する。初日は、神社の本殿で神楽をあげ、御神体を御神輿に移し、御旅所までお下りの行列となります。御神輿は六尺と呼ばれる若者が、町中を走り廻り、御旅所に安置されます。

江戸時代末期から伝わる長さ約4メートルの車輪付きの「宝来丸」は三味や太鼓入りの「七福神が乗り込んで島に山の幸、海の幸を運ぶ」という船歌甚句に合わせ、ねじり鉢巻きの地区民に綱で引かれます。かつて、本窯地区はアグリ網漁船団や捕鯨の根拠地として栄え、昭和25、6年には1700～1800人いた人口が現在30人程に減っています。旧暦9月17日、18日で行われていましたが、現在は、10月の第3土曜日、日曜日に行なわれています。

【白鳥神社例大祭】 9月中旬
祭り・伝統行事（玉之浦エリア）

神輿かついでワッショイ!!



御輿が郷内を巡幸し、途中船に乗って海を渡り、そのさまは漁業の町らしく勇壮。

例大祭の中日の夜には、古式伝来の太神楽神事が行われる。9月20日頃休日をはさんで2日間。船でみこしが渡り、神楽奉納もあり、「ヨウマエ、ヨウマエ」と掛け声も楽しい。

【五島神楽】

国指定重要無形民俗文化財

(八幡・住吉・五社・天満神社
・白鳥・富江・戸岐)

400年以上の伝統をもつ神楽



五島に伝わる神楽で、本来四十八番まであると言われていたが伝承が十分ではありません。白鳥神社、富江神社、五社神社、戸岐神社など今でも舞わ

れますが、一部分しか残っていません。

五島神楽は、長崎県五島列島の各地で伝承され、地元の各神社の祭礼の折などに行われています。これらの神楽は、一間四方の畳二畳分という狭い場所の中をめぐるように舞うもので、二基の太鼓と笛、時に鉦の演奏にのせて舞われています。

ひとくち メモ

五島の神楽

五島の神楽は、文献によれば室町時代後期に今の神楽の原型が生まれたとあります。江戸時代中期に現在の神楽舞に整ったと言われ、400年以上の伝統を持ちます。2002(平成14)年には「国の選択無形民俗文化財」に、2016(平成28)年には「国の重要無形民俗文化財」に指定されました。五島の神楽を分類すると、七つに大別されます。この七つの神楽を総称して「五島神楽」というのが一般的ですが、歴史的に五島の中心であった旧福江市内に伝承される神楽を、地元の人びとは「五島神楽」といって親しんでいます。しかし、同じ富江や玉之浦や岐宿の神楽も「五島神楽」と土地の人たちは言います。宇久島では単に「神楽」としており、上五島の人びとは「上五島神楽」と呼び下五島の神楽と区別しています。現在では五島列島のすべての神楽を総称して「五島神楽」と呼ばれるようになりました。

【大宝郷すなわの砂打ち】 10月末
祭り・伝統行事（玉之浦エリア）

県指定無形民俗文化財



砂打ち行事と関わりの深い言代主神社は大宝寺境内にあり、古くは一王寺権現と称していましたが、明治の神仏分離政策によって言代主神社と改称されました。

大宝郷の歴史は、すなわち大宝寺の歴史でもあります。大宝寺の歴史は古く、創建は701（大宝1）年にまでさかのぼり（寺名の由来はこの年号にある）、その後、806（大同1）年に唐からの帰途、五島に立ち寄った空海が大宝寺に立ち寄り、真言宗に改宗したと伝わっています。

福江みなとまつり 10月第1金曜日、土曜日、日曜日
祭り・伝統行事（福江エリア）

市民のイベント



福江島で開かれる福江まつりは1957（昭和32）年、旧福江市の市民融和を目的に農、漁、商、工の祭りとして始まりました。1977（昭和52）年から青森のねぶた師を招いて「遣唐使と空海」「火消しカップ」など五島とゆかりのあるねぶたが製作されました。商店街のアーケードは歩行者天国となり太鼓や笛の囃子が鳴り響き「はねと」が乱舞します。

※2006年、50周年の節目を迎え、「福江まつり」から「福江みなとまつり」に改名。

特産品

私たちが日頃目にして、珍しくなく思っている物でも、違った土地から訪ねてきたお客さまには、おみやげ話になるほどに映っているかもしれません。

島の特産品を、覚えておくことも決して無駄なことではありません。

五島の特産品

バラモン凧

「バラモン」とは、「活発な、元気のいい」という意味です。鬼に立ち向かう武士の兜の後ろ姿が描かれており、勇壮で鮮やかな彩りです。五島では、男の子の健やかな成長を願い揚げられ、また民芸品としても人気があります。



サンゴ製品

五島におけるサンゴの歴史は、1886（明治19）年男女群島沖で発見されたことに始まります。サンゴは深海（百数十メートル）に生えており、最低でも5～600年の年月の物でないと宝石としては使えない珊瑚芸術です。サンゴ船という特別な船を使い網で採取し、男女群島周辺での稀少価値の高いサンゴを一つ一つ心を込めて加工した五島の残すべき貴重な伝統工芸品です。

ステンドグラス製品

教会堂や西洋館の窓の装飾に多く用いられています。着色ガラスの小片を結合し、絵や模様を表現したもので、五島ではストラップやランプなどのステンドグラス作り体験もできます。

地元産木工製品

五島産木の、食器やストラップ、パズルやペンなど。名入れも可能。作品作り体験もできます。



五島牛

五島の恵み豊かな自然と、暖冬涼夏の風土の中で育てられる純粋な黒毛和牛です。塩分が適度に含まれた牧草を食べ大地でのびのびと放牧されるため、引き締まって質の良い霜降り肉です。やわらかい肉質で香ばしく、食通の舌を満足させる味です。



鬼鯖鮨

五島列島の豊かな海から水揚げされた新鮮な真鯖を独自の旨酢に漬け込みしめ鯖にしています。通常の上め鯖と異なり旨酢に浅く漬け込むことで、新鮮な鯖本来の生に近い旨味を強く引き出しています。この鬼鯖を材料にして手づくり鮨に仕立てています。



鯉の生節

島列島の近海で水揚げされる鯉の中でも、美味しい旬のハガツオを新鮮なうちに加工し、桜や桜の木で一本一本ていねいに燻したレトルト食品です。燻す際に滲み出る鯉の脂で程よい柔らかさに仕上がっているのが特徴で、酒の肴や惣菜用として最適です。



五島するめ

ケンサキイカを原料とするするめを1番するめと呼び、長崎県の五島周辺のケンサキイカを使うことが多かったところから五島するめともいわれています。肉が厚くて刺身もおいしいが、乾燥するとうま味に加えて甘みが増します。水イカ（アオリイカ）のスルメも美味しいです。

からすみ

高級珍味の一つで、古来よりその形が唐墨に似ている為「からすみ」と呼ばれ、昔から出世魚としてお祝いに使用される鰻（ボラ）の「はらご（卵）」を生成したものです。長崎港外野母半島および大瀬戸、五島方面産の物が最も優秀と言われています。



練物（かまぼこ）

五島近海で獲れたイワシ、トビウオ、アジ、エソ、ハモなどを原料にし、魚本来の旨味を引き出しています。そのままでも、わさび醤油やマヨネーズでも美味しくいただけます。



五島ルビー

富江は「五島ルビー」というトマトの産地。五島ルビー研究会のメンバーが中玉トマト（30g以上200g未満）を栽培。関東を中心に出荷されており、市場でも高い評価を得ています。五島ルビーは、糖度8以上（一般のトマトは約5度）とあって甘くてみずみずしいのが特徴。まるで宝石のルビーのように輝く五島ルビーの美味しさです。



五島手延べうどん

島に自生する椿から採れる最高級椿油や島の良質の天然塩を使い、潮風による自然乾燥を行っています。細く手延べしてコシが強く、湯につけ過ぎてものびないのが特徴で、風味とコシの強さは「日本三大うどん（他には香川の讃岐うどん、秋田の稲庭うどん）」の一つとして好評です。



カンコロ餅

17世紀前半に中国、琉球を経て九州に伝わってきたサツマ芋（甘藷）を薄く切つてゆで、天日に干した「カンコロ」を原料に、白モチとまぜあわせてつき上げたのが「カンコロモチ」です。当初は、保存食用として作られていましたが、現在は正月時期を中心に農家をはじめ、各家庭で作られています。



五島椿（つばき）茶

ツバキ葉と茶葉が相性が良く、製茶では常識であった茶葉を蒸す製法を改め、水分を60%まで飛ばした状態の茶葉をツバキ葉と揉捻（じゅうねん）することで香りまろやかな飲料になります。



また、酵素菌を活かすことで糖尿病の予防や中性脂肪・体脂肪を下げる効果が確認され、最終的に第三者機関による安全性の認証を経て市場に出ることとなりました。五島の恵みで育った椿と茶葉を島内で加工生産することにこだわった地域特産物として紅茶風味で飲みやすいお茶です。

焼酎（麦・芋焼酎）

麦焼酎「五島麦」、芋焼酎「五島芋」

福江島初の焼酎製造工場で作られました。原料の麦、芋は全て五島産のものを使用し、九州名水百泉にも選ばれた、五島市七岳湧水で割水をして作られた焼酎です。酒類鑑評会大賞（最高位）受賞。



五島茶焼酎「鬼の泪」

大自然がもたらす、美味しいものがいっぱいの五島。鬼岳のふもとには薫り高さ良質の五島茶が芽吹き、山内の盆地には、ふっくらしたミルクイー米の稲穂がこうべをたれる。

人生は喜怒哀楽。「泪」にはいくつものドラマがある。

コシヒカリを超えるもち

もちとしたミルクイー米をベースに、独特な五島茶の香りが心地よい、本格五島茶焼酎「鬼の泪」…

五島産のお茶と五島産のお米で蒸留した珍しい焼酎。

お茶の香りがして女性にも好評です。



五島ワイン

地元で作った原料を地元で加工する酒蔵は、長崎県初。2008年からブドウ栽培を始めそのブドウを材料に島外でワインを作っていましたが2014年4月に五島ワイナリーが完成し11月に初出荷しました。2.2ヘクタールに約1200本のぶどうの木を栽培。キャンベル・アーリーという黒ブドウを材料としています。五島で育った葡萄が、五島でワインになりました。

椿油（食用）、椿あめ、 椿石飴・シャンプー・リ ンス、化粧品

五島列島は伊豆七島ととも
に日本で椿油の二大生産
地で、天然野生のヤブつば
きの木が、花を咲かせてい
ます。この実から採れる油
は、古くから食用油と整髪
料として利用されてきまし
た。日本薬局方でも皮膚科
の基剤として指定されてい
ます。



ご当地限定商品

- Tシャツ（ばらもん、ちゃんこ他各種）
- ストラップ（キューピーシリーズ各種、玉之浦ハローキティ他）、マグネット各種

郷土料理

五島牛

五島の恵み豊かな自然と、
暖冬涼夏の風土の中で育て
られる純粋な黒毛和牛です。
塩分が適度に含まれた牧草
を食べ広大な大地でのびの
びと放牧されるため、引き
締まって質の良い霜降り肉です。やわらかい肉質で香ばしく、
食通の舌を満足させる味です。（日本和牛共進会肉質の部で
内閣総理大臣賞を受賞）



キビナゴのいりやき

体の表面の青い縞模様が美しい小魚で、五島で一番食べ
られています。キビナゴは地方によって、キビナ、キビナゴ、
キンナゴと呼ばれ、大鍋に野菜と一緒にに入れて食べます。

ハコフグ（カットツポ）のみそ焼き

ハコフグは滑稽な顔とからだで、小さな胸びれでパタパタと泳ぐ愛嬌ある魚です。旬の時期は非常に短く、漁獲高が少ないので、なかなか手に入りません。内臓を取り出し、その中に麦味噌、酒、小ネギ、みりんを練り合わせたものを入れて焼き、味噌とフグの内側についている身を混ぜ合わせて食べるという五島ならではの珍味です。



うにめし

うにめしは明治時代から、五島、壱岐などで作られてきたもので、一般的には炊き込み飯です。昆布だし、酒（みりん）、しょう油（かくし味として砂糖を少々入れるところもある）で調味し、沸騰したら生うにを入れて炊き上げます。時にはとこぶしやサザエの刻んだものをいれることもあります。



天然塩

五島の海水からとれるミネラルをたっぷり含んだ天然塩。全国の料理人から注文が来るほど美味しいとの評判です。

あごだしスープ

お湯に溶かすだけ簡単に美味しいスープができます。トビウオ（五島弁ではアゴ）からとった出汁です。

終わりに

五島市おもてなしガイド連絡協議会では、これまでにガイドマナーから始まり、五島の歴史、キリシタン、自然などについてガイド養成講座を数多く開催してまいりました。

その内容を分かりやすくまとめ、執筆するために貴重な資料を提出していただきました。また、執筆原稿には、数々の助言をいただきました多くの皆さまに、心より厚く感謝を申し上げます。

観光ガイド用テキスト 五島案内人ノート

発行日

第1版 2015年11月1日

第2版 2023年2月28日

発行者

五島市おもてなしガイド連絡協議会

五島市ふるさとガイドの会

NPO法人 アクロス五島

NPO法人 DONDON 奈留

協力

(敬称略)

草野末一 出口敏也 永治克行 松尾實

参考文献

- 旅する長崎学15(長崎文献社)・五島雑学辞典(永治克行)・五島市ガイドブック(五島市観光交流課)
- ・教会巡りハンドブック(五島市世界遺産登録推進協議会)・五島市文化財(五島市教育委員会)
- ・福江市の文化財・第三集伝説と民話(福江市教育委員会)・Marugoto(五島市役所)
- ・五島要覧(長崎県五島振興局)・長崎・新キリシタン紀行 ながさき巡礼(社団法人 長崎県観光連盟)
- ・自然と対話する15ロード(NPO法人 アクロス五島)

●本書の一部あるいは全部について、いかなる方法においても無断で複写、複製する事を禁じます。

●本書は「平成27年度長崎県世界遺産受入体制整備促進事業」の助成を受け作成したものです。

五島歴史略年表

2万年前			五島に人が住みつく
縄文			江湖遺跡・頭が島遺跡・白浜遺跡・宮下遺跡
弥生			寄神遺跡・大浜遺跡
飛鳥	695	持統9	深江(福江)五社神社創建
奈良	776	宝亀7	第14回遣唐使船渡唐の途次寄泊
平安	804	延暦23	空海、最澄遣唐使船にて五島出発。入唐の途次白鳥神社に海上安全を祈り、帰朝後自作の十一面観音奉納
	894	寛平2	遣唐使船廃止(五島は遣唐使船の航路及び泊地として知られ、肥前風土紀、続日本記、万葉集、蜻蛉日記等に名を残す)
鎌倉	1187	文治3	平清盛異母弟、平家盛が源平の乱を避けて宇久島に移り、領主となり、宇久次郎家盛と改称(五島家始祖)と、言う説もある
室町	1383	弘和3	覚公、鬼宿(岐宿)城岳に館を構える
	1388	元中5	勝公、福江に移転し辰ノ口城を築く
	1507	永正4	玉之浦納の乱により圀公自刃
	1521	大永1	盛定公、納を討伐平定する
	1526	大永6	江川城を築く
	1540	天文10	明国人王直来航し通商を乞い、盛定公が保護する(後、倭寇に転ずる)
	1566	永禄9	アルメイダ、ロレンソ来島してキリスト教を布教
安土桃山	1592	文禄1	純玄公、宇久姓を五島姓に改め、総勢700名で朝鮮の役に出陣。小西行長に属す
	1598	慶長3	有川で紀州人と共に捕鯨業創始
江戸	1614	慶長19	領内のキリスト教徒追放(禁教令)江川城焼失
	1617	元和3	将軍家より五島領15530石の朱印
	1634	寛永11	藩士170余家の福江直りを完了
	1638	寛永15	石田陣屋成就。深江を福江と改称
	1641	寛永18	異国船御番に領内7ヶ所遠見番所設置

江戸	1662	寛文2	五島盛清公3000石で分家し富江藩を設立。富江陣屋創設。
	1761	宝暦11	三年奉公制始める
	1778	安永7	明星院本堂建立(現存する五島最古の木造建築物)
	1782	天明2	陣屋内に至善堂創設(藩校の始まり)
	1797	寛政9	五島藩成立以来初の百姓一揆起こる
	1813	文化13	伊能忠敬、測量のために来島
	1837	天保8	藩財政逼迫し借財1万3~4千両に
	1848	嘉永1	福江川口の常灯鼻完成
	1849	嘉永2	伊能忠敬、測量のために来島
	1858	安政5	盛成公隠殿に移り、心字が池庭園築造
	1863	文久3	福江城(石田城)完成
明治	1866	慶応2	坂本龍馬、ワイル・ウエフ号遭難供養碑建立のため有川に
	1868	明治1	キリシタン迫害激化(五島崩れ久賀よりはじまる)
	1872	明治5	城など陸軍省引渡し。本丸解体
	1879	明治12	大瀬崎灯台完成。初代堂崎天主堂建立
大正	1886	明治19	男女群島に珊瑚発見される
	1912	大正1	五島・長崎間に定期航路(九州商船の前身)
昭和	1919	大正8	福江村町制施行
	1948	昭和23	三井楽町京の岳に米軍駐留
	1954	昭和29	1町4か村合併して福江市制施行
	1955	昭和30	西海国立公園の指定受ける
	1962	昭和37	福江大火604戸焼失
	1963	昭和38	福江空港完成。本土との航空路開設
平成	1975	昭和50	五島縦貫道、国道384号線に昇格
	2004	平成16	五島市制施行

観光ガイド用テキスト



五島市おもてなしガイド連絡協議会